

第54回 東京都消防操法大会

【ポンプ車操法の部】

操法実施要領
操法審査要領

一般社団法人 東京都消防協会

目 次

消防操法実施要領	1
ポンプ車操法統一事項	3
ポンプ車操法番員別統一事項	6
ポンプ車操法	9
審査実施基準	37
ポンプ車操法審査上の統一事項	40
ポンプ車操法審査表	43

消防操法実施要領

消防操法実施要領

1 消防操法の種別等

(1) ポンプ車操法

東京都消防訓練所が定めた「消防ポンプ操法実施要領」に基づく「ポンプ車操法」の手びろめによるホース延長操法とする。

(2) 統一事項

各操法とも下記のとおり統一する。

ア 放水を行うこと。

イ 指揮者は、班長以上で最上位の階級にある者とする。(補助者の階級は問わない。)

ウ 操法員の行う収納動作は、管そう、とび口のみとする。

(3) 使用機械器具

機 器 名	個数	仕 様 等
ポ ン プ 車	1	各市町村配置のもの
ホ ー ス	6	
と び 口	1	
吸 管 枕 木	1	
吸 管 控 綱	1	
管 そ う	2	
1 改造及び特別な加工等は認めない。 2 所定の位置に積載すること。 3 常時積載されているものを使用すること。 4 車両型式・性能・吸管等及び積載器具の差異による審査上の配慮はしない。		

2 出場隊等

(1) 出場隊資格

(社)東京都消防協会会員である消防団員とする。

(2) 出場隊員等の指定上の留意事項

出場する消防団の団長は、操法大会出場団員、旗手、会場管理係員、ホース収納係員、駐車場係員等の指定にあたっては、健康管理区分等に十分配慮し、任務遂行可能な者を指定すること。

(3) 服装等

保安帽、作業服、階級章(布製、ウェルダーク製)、救助用半長靴、手袋及びゼッケンを着用する。

なお、服装等は、出場隊ごとに色及び形状を斉一する。

(4) 行動

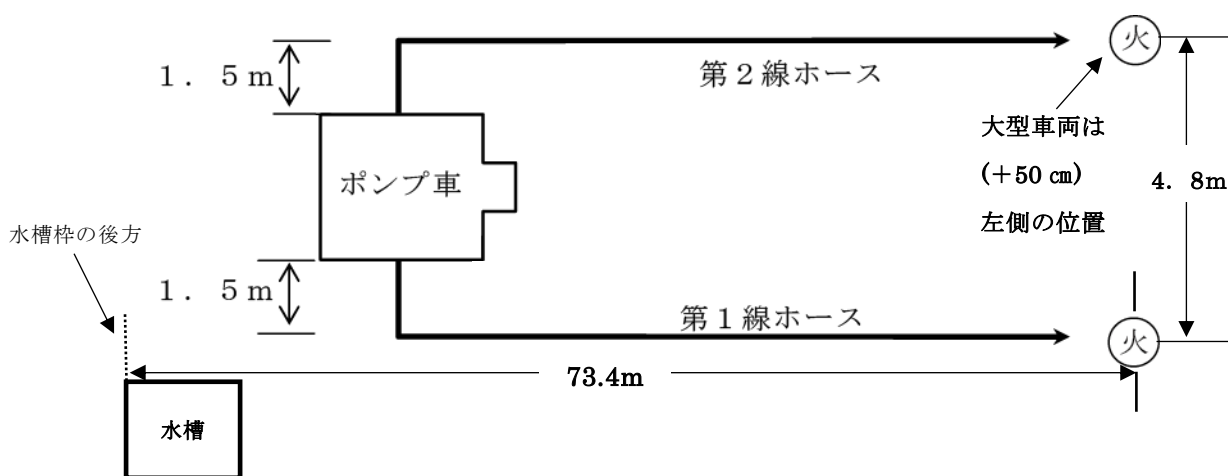
審査員及び大会係員の指示に従い速やかに行動すること。

ポンプ車操法統一事項

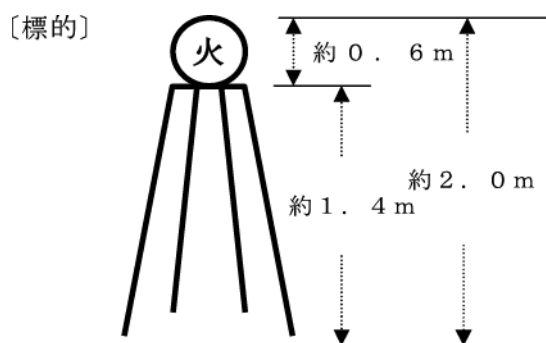
東京都消防操法大会では、東京都消防訓練所が定めた「消防ポンプ操法実施要領（ポンプ車操法）」の手びろめによるホース一線延長操法のうち、一部を省略又は変更して実施する。これに伴う操法要領は、次のとおりとする。

1 火点の位置及び標的

- (1) 東京都消防操法大会では、水槽枠の後方から標的の中心までの距離を73.4mとする。



- (2) 火点は次に示す標的をもって表示する。

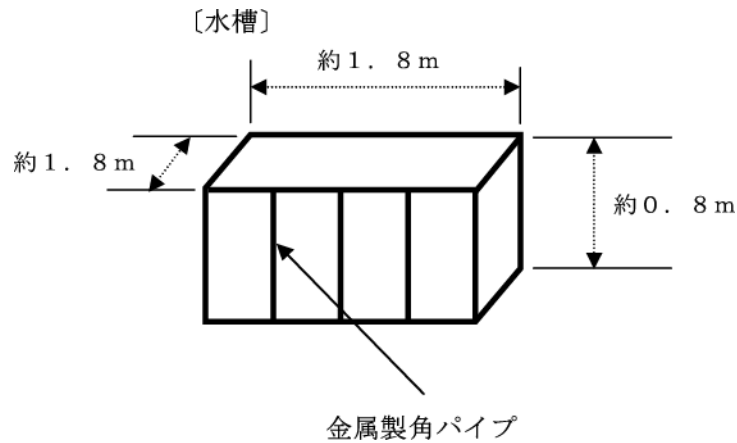


2 水利の位置及び種類

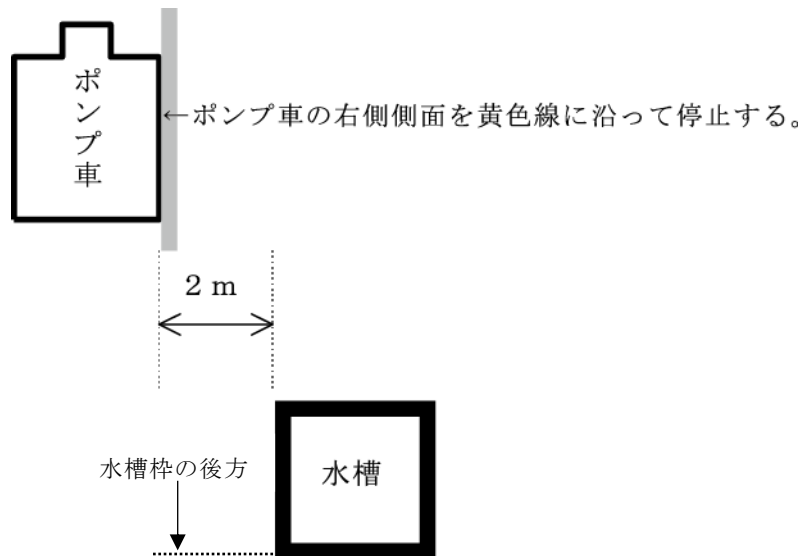
- (1) 水利は、容量2,500リットルの角形仮設水槽とし、その位置及び形状等は下記のとおりとする。

なお、車両の位置は、出場隊ごとに吸管の長さを考慮した位置とする。(水槽に吸管を1.5メートル沈められる位置を基準とする。)

- (2) 水利には吸管スタンド（通称：うま）を使用しない。



(3) 水利の位置等



3 操法開始要領

大会係員の指示により、指揮者は隊員を指揮してポンプ車を移動（車輪止めを設定）させた後、待機位置で「整列休め」の姿勢で待機し、合図係員の「〇〇消防団、操法開始」の合図により操法を開始する。

4 想定付与の統一

「火点は前方の標的、水利はポンプ車右側後方水槽、手びろめによる二重巻ホース1線延長」とする。

5 操法時における合図及び時機

操法時の「〇〇消防団、操法開始」、「第2線延長開始」、「放水中止」、「排水止め」及び「収納開始」の合図は、次により合図係員が指揮者に対し口頭及び旗で行う。

- (1) 操法の開始は、出場隊の準備が完了し、合図係員が所定の位置についた時点で「〇〇消防団操法開始」と口頭及び白旗で合図する。
- (2) 第2線延長開始は、注水方向変換が終了し、指揮者が火点に向かって姿勢を正した時点から、おおむね5秒経過した時点で、「第2線延長開始」と口頭及び白旗で合図する。

- (3) 放水中止は、第2線放水後、3番員がとび口を構えてからおおむね5秒経過した時点で、「放水中止」と口頭及び赤旗で合図する。
 - (4) 排水止めは、3番員の「伝達終わり」の「り」から一定時間（秒）経過した時点で口頭及び赤旗で合図する。
 - (5) 収納開始は、1・2番員が排水操作を終了し、姿勢を正した時点で、「収納開始」と口頭及び赤旗で合図する。
- 6 操法中における指揮者の指示、行動
指揮者は、不測の事態等が発生した場合、隊員に対し必要な指示等を実施する。
 - 7 使用消防機械器具
操法開始前において消防機械器具等に不適等が認められた場合は、減点とする。
 - 8 真空ポンプ等からの排水
真空ポンプオイル排出防止機能付車両以外は、真空ポンプ等からの排水を直接グラウンドに流さないようにするため、各団で漏洩防止措置を行う。また、大会会場に準備した資器材を使用して処理する。
 - 9 退場要領
「わかれ」の動作を実施したのち、指揮者は「乗車」と号令をかけ、4番員は乗車し、他の番員は車両を誘導し退場する。

ポンプ車操法番員別統一事項

共通

- 1 操法開始直前での点検は、積載器具等の確認及び手直し程度とする。
- 2 待機位置につくまでの動作は審査の対象外であるが、規律を重視し速やかに実施する。
- 3 ホースの担ぎ方は、めす金具が前下になるように左肩に乗せ、左手でホース上部中央部付近を保持し搬送する。

指揮者

- 1 注水方向変換を実施する。
- 2 収納時
 - 1・2番員が筒先を背負ったのを確認し、第一線火点側余裕ホースの頂点方向に向きを変え発進後、操作指揮位置へ最短経路で移動し、右向け止まれの要領で停止する。
- 3 身体・服装点検
最終収納者が資器材を収納した後、その場で実施する。
- 4 解散
終了報告後、「わかれ」の動作後、隊員を指揮し、速やかに退場する。

1番員

- 1 注水姿勢
ノズルを開放後、標的に向かって注水し、標的を倒した後、基本注水姿勢（筒先を地面に対して約30度に構える。）で注水する。
- 2 排水操作
合図係員から口頭で「排水止め」の合図があったら、直ちにノズルをシャットし、次の動作に移行する。
- 3 収納操作
指揮者の「おさめ」の号令で、筒先を背負った後、左足を軸に右足を第3ホースおす金具の右側前方に踏み込み、左膝を立てた折り膝の姿勢でおす金具部分を折った後立ち上がり、半ば右に向きを変え、ホース線に沿って進み（火点側余裕ホース内は、沿わなくてよい。）筒先を元の位置に収納する。（収納時、2番員と交差が必要な場合は、第2結合部付近で交差する。）
- 4 身体・服装点検
筒先収納後、待機位置にて点検を実施する。
- 5 解散・退場
「わかれ」を実施し、速やかに退場する。

2番員

- 1 「放水始め」の合図
ポンプ車前おおむね10メートルの位置（かけ足中）から伝達することができる。

ただし、4番員が基本の姿勢をとっていない場合は、基本の姿勢をとった時点から伝達できる。

2 排水操作

合図係員から口頭で「排水止め」の合図があったら、直ちにノズルをシャットし、次の動作に移行する。

3 収納操作

指揮者の「おさめ」の号令で筒先を背負った後、左足を軸に右足を第3ホースおす金具の右側前方に踏み込み、右膝を立てた折り膝の姿勢でおす金具部分を折った後立ち上がり、半ば左に向きを変え、第2線火点側余裕ホースの頂点付近を通り第3結合部まで最短経路で進み、その後、ホース線に沿って進み筒先を元の位置に収納する。

(収納時、1番員と交差が必要な場合は、第2結合部付近で行う。)

4 身体・服装点検

筒先収納後、待機位置にて点検を実施する。

5 解散・退場

「わかれ」を実施し、速やかに退場する。

3番員

1 「第2線放水始め」の合図

ポンプ車前おおむね10メートルの位置（かけ足中）から伝達することができる。

ただし、4番員が基本の姿勢をとっていない場合は、基本の姿勢をとった時点から伝達できる。

2 収納操作

指揮者の「おさめ」の号令で、最短距離でとび口を元の位置に収納する。

3 身体・服装点検

とび口収納後、待機位置にて点検を実施する。

4 解散・退場

「わかれ」を実施し、速やかに退場する。

4番員

1 投入補助動作

3番員と歩調を合わせて吸管投入に便利な位置まで進み、3番員の控綱を解くのを待ち、3番員の「よし」の合図で投入の補助動作を行う。

2 「伝達」の合図

2番員の「放水始め」、3番員の「第2線放水始め」の伝達復唱後、直ちに送水操作を実施することができる。

3 送水操作

送水圧力は0.4MPaを越えない範囲とする。

ホースの屈曲、折れ曲がり等がない場合の送水圧力は、スロットルを全開にしてもポンプ圧力は0.1～0.3MPa程度しか上昇しない。スロットル操作を誤り、そのままの状態が開始されると、筒先圧力が1.0MPaを超える恐れがあり、重大な受傷危険要因となる。

4 収納操作

指揮者の「おさめ」の号令で乗車し、ポンプレバーを解除後、エンジンを停止する。

なお、ポンプレバーを解除すると、車両下部から排水されるポンプ車の場合は、排水を受ける容器等を操法開始前に出場隊で準備する。

5 身体・服装点検

第2線の第1結合を放口から離脱し余裕ホースを延長してめす金具部分を折り返した後、待機位置にて点検を実施する。

6 解散・退場

「わかれ」を実施し、速やかに退場する。

補助者

1 待機

操法員が待機位置についたら、水槽後方で折り膝の姿勢で待機する。

2 吸管の浮上防止

3番員が吸管を投入（吸管が着水した時点）したら、直ちに浮上防止の措置を実施することができる。

3 水槽への充水措置

操法実施中は水槽内の水量に注意し、必要により大会係員に連絡する。

4 吸管収納

最終番員が待機位置に戻ったら、自団のホース収納係員と協力して吸管を水槽から引き上げ、吸管内の水を水槽に戻す。次に、吸管、枕木、控綱を積載位置に収納し、水槽の後方で折り膝の姿勢で待機する。

5 退場

車両誘導を実施する各番員の安全監視を行う。

6 操法実施中の注意事項

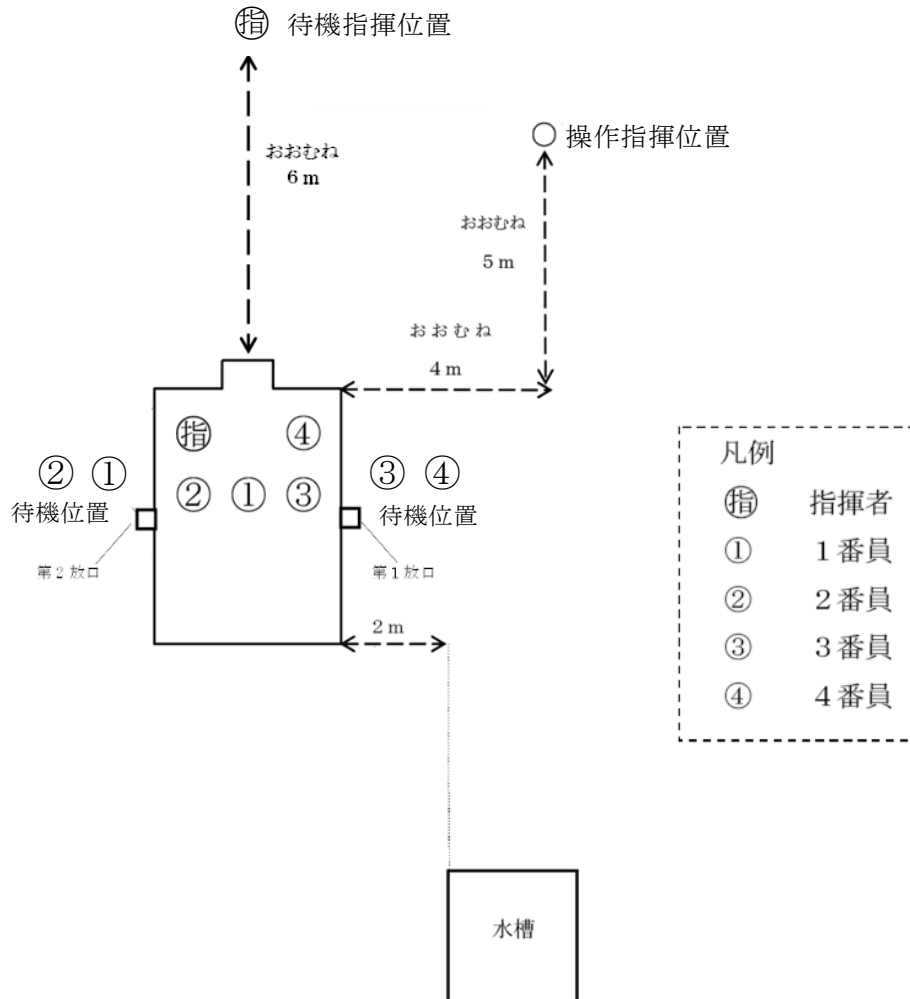
上記以外の協力はできない。

ポンプ車操作法

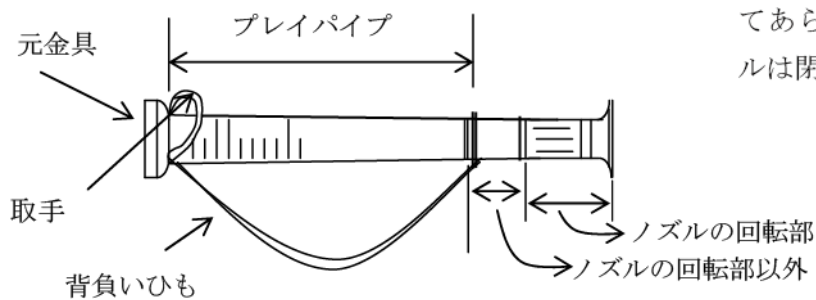
ポンプ車操作法

1 機械器具・水利・隊員等の位置

(1) 定位図



(2) 筒先各部の名称等



※ 背負いひもの長さは、操作員の体形等に合わせ、てあらかじめ調整しノズルは閉鎖しておく。

待機・報告・乗車	
待 機	
③指	待機指揮位置で火点方向を向いて「整列休め」の姿勢で待機する。
各隊員	待機位置（①及び③を基準として、①②は車両左側後部ドア横、③④は車両右側後部ドア横の乗車しやすい位置）で火点方向を向いて、「整列休め」の姿勢で待機する。
点 呼	
③指	合図係員の合図により基本の姿勢を取り、待機指揮位置で回れ右をし、各隊員に対して「気を付け」の号令をかけ、隊員を基本の姿勢にし、「番号」と号令する。
各隊員	③指の「番号」の号令で①から順次各自の番号を呼唱する。
開 始 報 告	
③指	待機指揮位置で回れ右をし、前方の報告受領者に挙手注目の敬礼を行い、「〇〇消防団、ただ今から消防操法を開始します。」と報告し、挙手注目の敬礼を行った後、回れ右をする。
各隊員	③指の開始報告中は、基本の姿勢で待つ。
想 定 付 与	
③指	「火点は前方の標的、水利はポンプ車右側後方水そう、手びろめによる二重巻ホース1線延長」と付与する。
各隊員	基本の姿勢で③指の想定付与を受ける。
乗 車	
③指	「乗車」と号令し、各隊員の乗車を確認したのち速やかに乗車する。
各隊員	③指の号令で一斉に①②はそのまま右向け右をし、③はそのまま左向け左をし、基本の姿勢となる。④は半ば左向け左をしてかけ足行進の要領で発進し、左向け止まれの要領でポンプ車に正対し、基本の姿勢となる。その後④の「よし」の合図で速やかに乗車し、車両の走行に対応できる姿勢をとる。（乗車要領は、左右いずれの足からでもよいが乗車側によって足を合わせる。また、手すり等を確実に握って乗車する。）④は乗車後、エンジンを始動させ、「エンジンよし」と呼唱する。

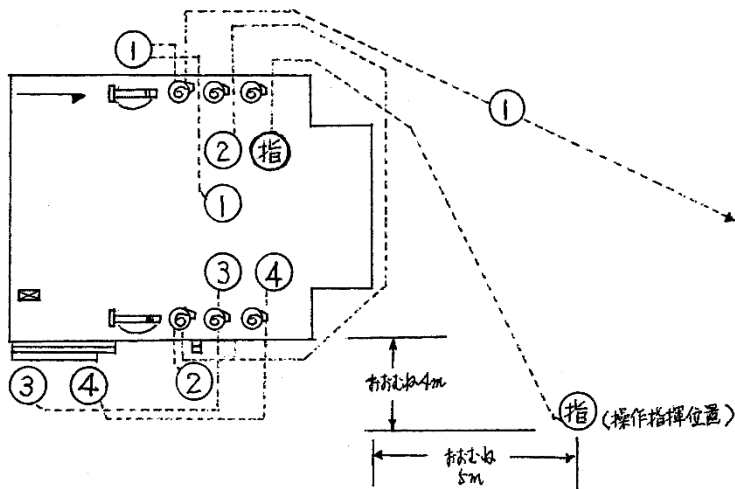
第1図 操作開始

③ 指	乗車後直ちに「操作始め」と号令し、④の「よし」の合図で下車。 (下車後は火点の方向を向いた姿勢をとる。)	下車後、操作指揮位置(ポンプ車前方5メートル、ポンプ車右側方4メートル)に左向け止まれの要領で(ホース線に正対)基本の姿勢で停止し、吸管操作およびホース延長等を監視する。
①	④の「よし」の合図により下車。 (下車後は火点の方向を向いた姿勢をとる。)	下車後、後方に向きを変え、筒先積載部にいたり、筒先を両手で取りはずし、右手でノズルの回転部以外を、左手は背負いひもの中央部を持ち、右手を頭上に左手を右脇下にして左腕及び頭部を背負いひもにくぐらせ、ノズルが右肩に元金具が左腰の近くにくるように筒先を背負い、さらに積載ホース(第3ホース)のめす金具部を右手で、左手はめす金具部の反対側を保持し、めす金具部が前下になるように左肩に乗せ、左手でホース上部中央付近を握って保持し、右手を下ろし火点方向に向きを変え、足を引きつけることなく発進し、第1、第2ホースの延長距離を考慮して火点に向かって前進し、第3ホース展張地点にいたり、めす金具部を右手で持ち、めす金具が手前になるように肩から下ろして地面に立て、
②	①に同じ	下車後、ホース積載位置にいたり、第2ホースを右手でめす金具部、左手で反対側を持って搬送に便利な位置に寝かせて置き(2歩以上は肩に担いで搬送する。)、次いで、第1ホースを右手でめす金具部、左手で反対側を持って(2歩以上は肩に担いで搬送する。) 展張に便利な位置にホースを地面に立て、右手でおす金具を下方から確実に保持し、若干持ち上げ、続いて右足でめす金具付近を確実に踏み、左手はホースに添え身体を火点方向に向ける。展張する際は、火点方向を確認し、右手のみ(左足を踏み出す。)で前方へ転がして展張する。おす金具を折って延長に便利な位置〔展張された第1ホースの右(外)側〕に置き、右足をホースから離し、立ち上がりながらめす金具側に向きを変え、両手でめす金具を腹部で保持し、放口側に向きを変えながら左手でめす金具、右手はホースに添えて右足を大きく踏み込み、更にめす金具を両手で保持し第一放口に結合して確認する。次いで約2メートルの余裕ホースをとった後、折り膝で第2ホースを左肩に担ぎ、第1ホースのおす金具を右手に持ち腰部につけた後身体を起こし、火点に向かって延長する。

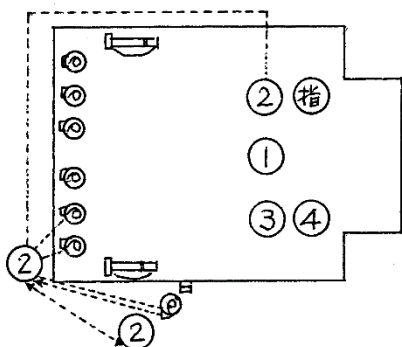
第1図 操作開始		
③	①②に同じ。	下車後、吸管積載部の左側に右向け止まれの要領でいたり（開脚）、近くの吸管止め金具を両手ではずし、④から送り出されたストレーナー部を両手で受け取ると同時に吸管左側に出て、左足を軸にして伸長方向に向きを変え、④の送り出す吸管のよじれをとりながらストレーナー側に重心をかけ、引きずらないように④と協力して、直線となるように伸長する。
④	⑤指の号令で、停車の措置を行い「よし」と合図する。（その後必要な措置を行い、下車後は火点の方向を向いた姿勢をとる。）	ポンプレバー操作を実施して（ポンプ回転確認後）「ポンプよし」と呼唱し、下車して火点を確認後、後方に向きを変え、吸管積載部の右側に右向け止まれの要領でいたり（開脚）、近くの吸管止め金具を両手ではずし、ストレーナー部を③に渡した後、吸管を積載部から順次よじれを取りながら送り出し、吸管伸長が終わろうとするところで、

第1図 操作開始

[その1]



[その2]



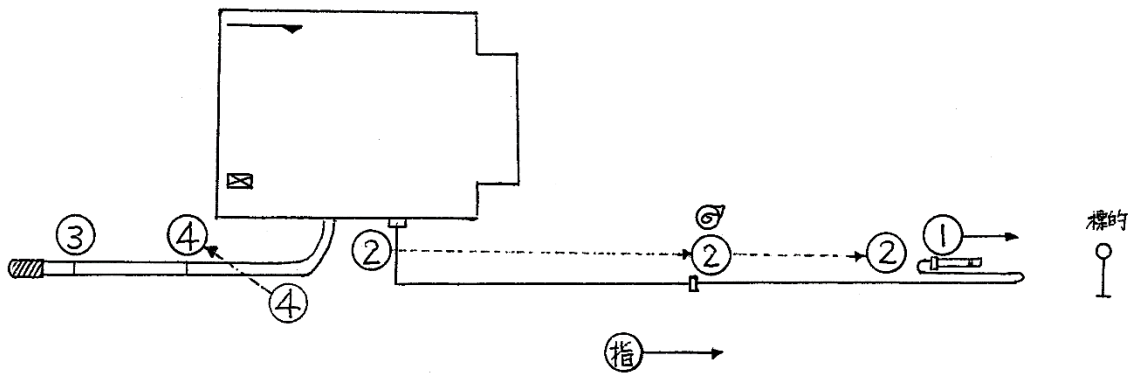
第2図・第3図 操作 (1)(2)

③	<p>つづいて②が第1ホース延長後おす金具を地面に置いたのを確認した後、火点方向に向きを変え（足を引きつけない。）、①に先行して火点に向かって前進し、火点指揮位置に基本の姿勢で停止して火点（火災）の状況を確認した後、左に大きく向きを変えて基本の姿勢で①に正対し各隊員の操作状況を監視する。</p>
①	<p>右手でおす金具を下方から確実に保持し、若干持ち上げ、続いて右足でめす金具付近を確実に踏み、左手はホースに添え身体を火点方向に向ける。展張する際は、火点方向を確認し、右手のみ（左足を踏み出す。）で前方へ転がして展張する。次いで、右手はおす金具を持ったまま左足（かかと）を軸に身体を右回りに半転させ（ポンプ車に正対できるように）、同時におす金具が上を向くように左足で確実に押え、身体を起こしてポンプ車方向を見る。さらに左手で取手近くのプレイパイプを握り、元金具を前方へ押し出しながら頭上へ移動し、背負いひもの中央部付近を右手で持って頭をくぐらせ、右手はノズルの回転部以外を持ち、左手はプレイパイプの中央部に持ち変え、第3ホースと結合して確認し、左手でプレイパイプ上部を持ち、右手で取手を握ると同時にホースから左足を離して（右足を軸）火点側に踏み込み、基本注水姿勢をとる。②が第2ホースを延長し、第3ホースに結合して姿勢を正したら、②に対して（後方をふり向かない。）「放水始め」と合図し、</p>
②	<p>第2結合場所にいたり、第1ホースのおす金具をその場に置き、第2ホースを地面に立てて置き、右手でおす金具を下方から確実に保持し、若干持ち上げ、続いて右足でめす金具付近を踏み、左手はホースに添え身体を火点方向に向ける。展張する際は、火点方向を確認し、右手のみ（左足を踏み出す。）で前方へ転がして展張する。第2ホースのおす金具を折って延長に便利な位置に置き、第1ホースのおす金具がやや上を向くように右足で押え、第2ホースのめす金具を両手で持って第1ホースに結合し確認した後、右足をホースから離すと同時に立ち上がりながら火点方向に向きを変え、第2ホースのおす金具を右手に持ち、腰部につけたのち身体を起こし火点に向かって延長し、第3結合場所にいたり、第2ホースのおす金具をその場に置き、立ち上がりながらホースに正対後、第2ホースのおす金具がやや上を向くように右足で押え、第3ホースのめす金具を両手で持って第2ホースに結合し、確認して身体を起こしながら火点の方向に向きを変え、右足を左足に引きつけて基本の姿勢をとる。（両かかともが第3結合部より火点側になる。）つづいて①の「放水始め」を復唱し、回れ右をして（右足を引きつけない。）</p> <p>発進し、延長ホースの左側（内側）に沿ってポンプ車方向に前進し、第2結合部から④の方向に直進し、</p>

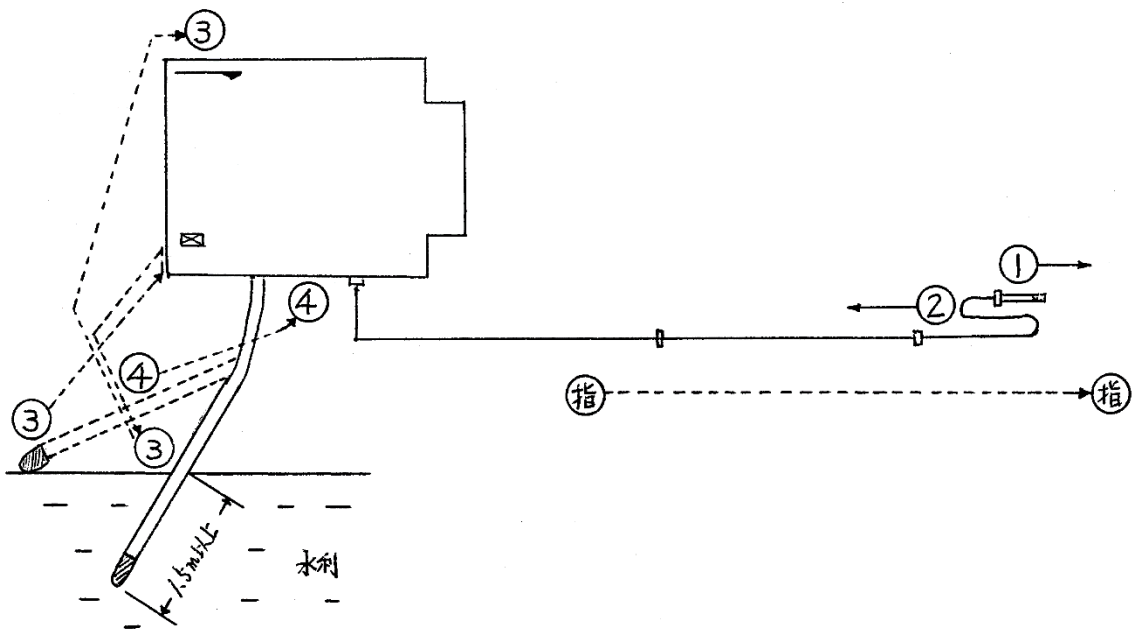
第2図・第3図 操作 (1)(2)

③	<p>つづいて④の「よし」の合図で、ストレーナー側に重心をかけた姿勢のまま左足から2歩半で、④と歩調を合わせて吸管投入に便利な位置へ吸管を両手と腰部で保持して進み、半歩目で左膝を立てた折り膝の姿勢をとり、吸管を左膝に乗せて吸管控綱を取りはずして右側に置き、右手で控綱の根元と末端を持ち、左手で吸管をかかえるように持って立ち上がり、「よし」と合図して右足を踏み出し、右手の控綱をすべらせながら④と協力して吸管を水利に投入する。(1.5メートル以上水利に沈める。)次いで、吸管控綱の末端を右手に持ってポンプ車方向に向きを変え、吸管の左側に沿ってポンプ車後部の吸管控綱の結着位置にいたり(低部に結着する場合は折り膝の姿勢とする。),「もやい結び」(末端を10センチメートルほど残して結着する。)で結着した後、枕木を両手で取り出し、左腰部に左手で持ち、吸管投入位置に向きを変え、枕木取付位置にいたり、枕木を右手に持ち変え、左手で吸管を持ち上げて枕木を吸管の下に敷き、両手でバンドを取り付ける。</p>
④	<p>吸管を離すことなく吸管中央部にいたり、吸管から手を離さないようにしてまたいで吸管左側(内側)に移動し、吸管を両手と腰部で保持し、ストレーナー側に重心をかけ「よし」と合図し、左足から小さく2歩半で③と歩調を合わせて、③の吸管投入に便利な位置まで進み、③の投入合図の「よし」で右足を踏み出し吸管投入の補助をする。次いで、吸管を地面に降ろし、その後立ち上がりながら吸口方向へ向きを変え、吸管の接地部をまたいで吸口側に左向け止まれの要領でいたり(開脚)、両手で吸口を全開する。次いで、向きを変え(2歩以上はかけ足)第1放口部にいたり(真空ポンプレバー、スロットルレバーが操作できない場合でホースの内側に移動する場合は、ホースの接地部をまたぐ。),真空ポンプレバー(真空ポンプ起動ボタン)とスロットルレバー(真空ポンプ起動ボタンを押し、自動的に回転が上昇する場合は操作しない。)を操作して(真空作成を確認後)「真空よし」と呼唱し、火点側を向いて基本の姿勢となる。次いで、右足を横に開きポンプ側の余裕ホースに配慮した後、再び火点に向かって基本の姿勢となり、放水開始の伝達を待つ。</p>

第2図 操 作(1)



第3図 操 作(2)



第4図 操作 (3)

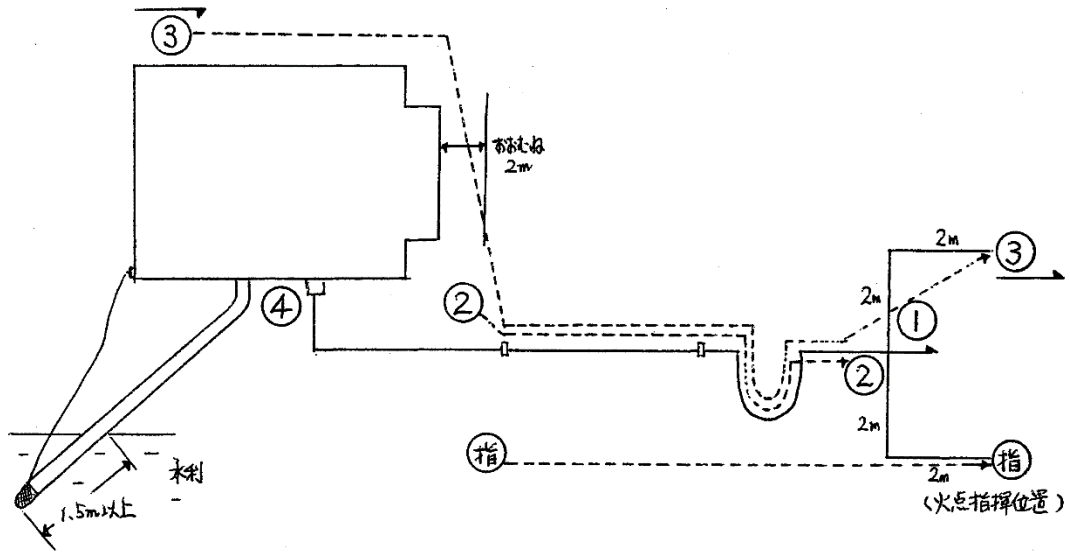
②	②が注水部署位置にいたり「伝達終り」の合図後、右に大きく向きを変えて基本の姿勢で火点(火災)の状況を監視する。
①	火点に向かっておおむね5～6メートル前進し、筒先を前方に振って上側のホースを前方に送り、筒先を左上腕部と腹部で確実にかかえ込み、折り膝又は折り膝に準じた姿勢となり右手でホースをたぐり寄せ、これを右手で持って立ち、右足を踏み出し、半円を描くようにひろげ、約10メートルの余裕ホースをとった後、右足を元に戻して基本注水姿勢をとり、筒先保持の安全確保に配慮して更に7～8メートル火点方向に前進して基本注水姿勢をとった後ノズル操作姿勢に移行し、右手を筒先から離さないように滑らせながらプレイパイプの中央部付近へ移動し、筒先を右脇下で確実に抱え、左手も筒先から離さないように滑らせながらノズルに移動して握り、棒状注水まで開き、ノズルが開いたならば、再び左手を離さないように滑らせながらプレイパイプの上部に戻して握り、右手もプレイパイプから離さないように、滑らせながら取手を握って基本注水姿勢をとり注水する。
②	第1放口側ポンプ車前2メートル位置で④に相対して停止し、右手を垂直に(手のひらは④側に向ける。)上げて「放水始め」と④に伝達し、④の復唱を受けた後右手を下ろし、回れ右をして足を引きつけることなく発進し、第2結合部まで直進した後、延長ホースの左側に沿って前進し、余裕ホースの火点側の曲部分から右側に入り①の反対側1歩後方(注水補助位置)に右足を踏み出していたり、「伝達終り」と合図して注水補助にあたる。
③	枕木を取り付け後、とび口積載方向に向きを変え、とび口積載位置に正対していたり(開脚)、とび口の柄の中央部付近を左手で持ち、右手はほぼ肩幅の間隔となるように持ってとび口を降ろし、左(右)に向きを変えると同時にこれを確実に左脇下に抱えて(とび先を下方にしておおむね45度傾ける。)破壊地点方向に向きを変え、かけ足で第2結合部まで直進し、延長ホースの左側に沿って〔第2結合部へいたる前までにホースの左側へ移動する。〕筒先員の3歩後方から破壊地点(筒先員の斜め左前方おおむね3メートルの位置)にいたり、左手でとび口の柄の中央部を、右手で柄の後部(端末からおおむね10センチメートルの位置)を持って、とび口を構える。
④	②の「放水始め」の伝達に右手を垂直に(手のひらは②側に向ける。)上げて「放水始め」を復唱し、右手を下ろして第1放口側に左足を踏み出し、放口コックを全開まで開くと同時に、計器と送水状況に配慮しながらスロットルレバーを操作し、適正な圧力を確保した後、左足を引きつけ火点に向って基本の姿勢となる。

第4図 操作 (3)

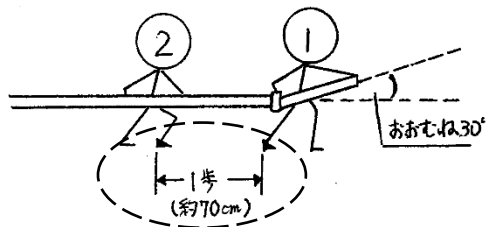
注水方向 (姿勢) 変換

③	③がとび口を構えたならば、火点監視の姿勢から左に大きく向きを変え①を向いて基本の姿勢となり、「右へ注水」「基本注水」「左へ注水」「基本注水」「折り膝」「立て」と号令し、その後、火点の方向に右に大きく向きを変える。										
①	「右へ注水」の号令で右足を軸に左足を右へ15度踏み出す。 「基本注水」の号令で右足を軸に左足を左へ15度踏み出す。 「左へ注水」の号令で右足を軸に左足を左へ15度踏み出す。 「基本注水」の号令で右足を軸に左足を右へ15度踏み出す。 「折り膝」の号令で右膝を地面につけ折り膝姿勢をとる。 「立て」の号令で基本注水姿勢をとる。										
②	「右へ注水」の号令で左足を軸に右足を左へ15度踏み出す。 「基本注水」の号令で左足を軸に右足を右へ15度踏み出す。 「左へ注水」の号令で左足を軸に右足を右へ15度踏み出す。 「基本注水」の号令で左足を軸に右足を左へ15度踏み出す。 「折り膝」の号令で左膝を地面につけた折り膝姿勢をとる。 「立て」の号令で立ち上がる。										
③	<table style="border: none; margin-left: 20px;"> <tr> <td style="border: none;">「右へ注水」</td> <td rowspan="3" style="border: none; font-size: 3em; vertical-align: middle;">}</td> <td rowspan="3" style="border: none; vertical-align: middle;">①と同じ動きをする。</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">「基本注水」</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">「左へ注水」</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">「基本注水」</td> <td rowspan="3" style="border: none; font-size: 3em; vertical-align: middle;">}</td> <td rowspan="3" style="border: none; vertical-align: middle;">そのままの姿勢 (動かない。)</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">「折り膝」</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">「立て」</td> </tr> </table>	「右へ注水」	}	①と同じ動きをする。	「基本注水」	「左へ注水」	「基本注水」	}	そのままの姿勢 (動かない。)	「折り膝」	「立て」
「右へ注水」	}	①と同じ動きをする。									
「基本注水」											
「左へ注水」											
「基本注水」	}	そのままの姿勢 (動かない。)									
「折り膝」											
「立て」											
④	火点方向へ向って姿勢を正し、エンジン回転音にも耳を傾けるとともに各種計器に配慮し(「右へ注水」「左へ注水」「折り膝」の注水変換時に頭を計器の方向に向けて計器を確認する。)必要に応じてスロットル操作を行う。										
<p>注水方向変換(右・左)</p> <div style="text-align: center;"> <p style="text-align: center;">おおむね15度</p> </div>											

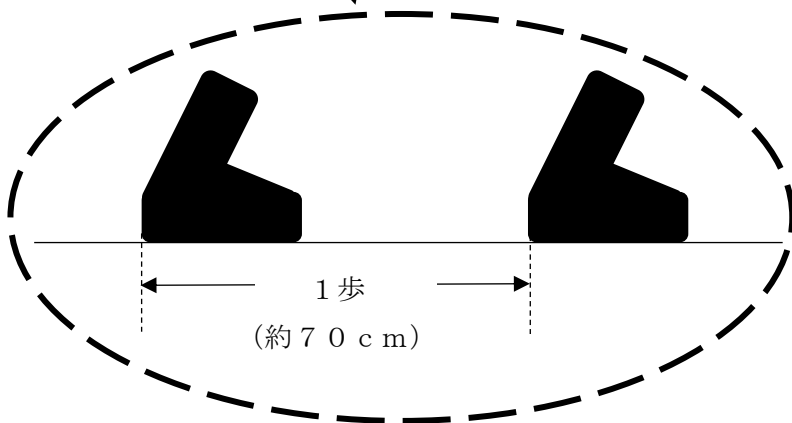
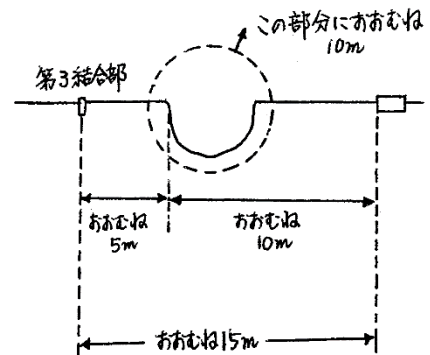
第4図 操作 (3)



○筒先補助員の位置

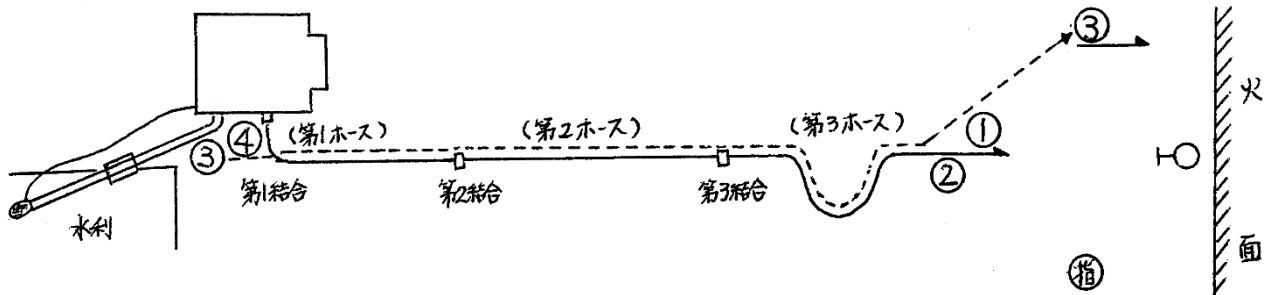


○火点側余裕ホース体形

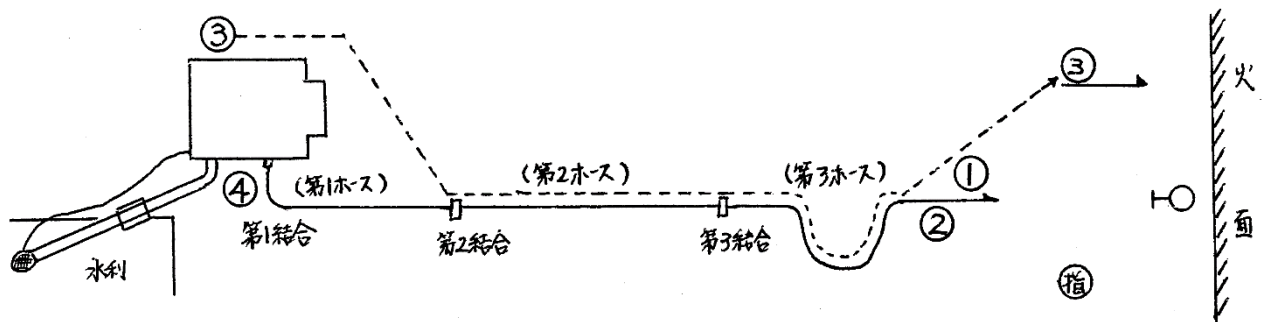


とび口搬送の経路

(1) とび口右側積載の場合



(2) とび口左側積載の場合

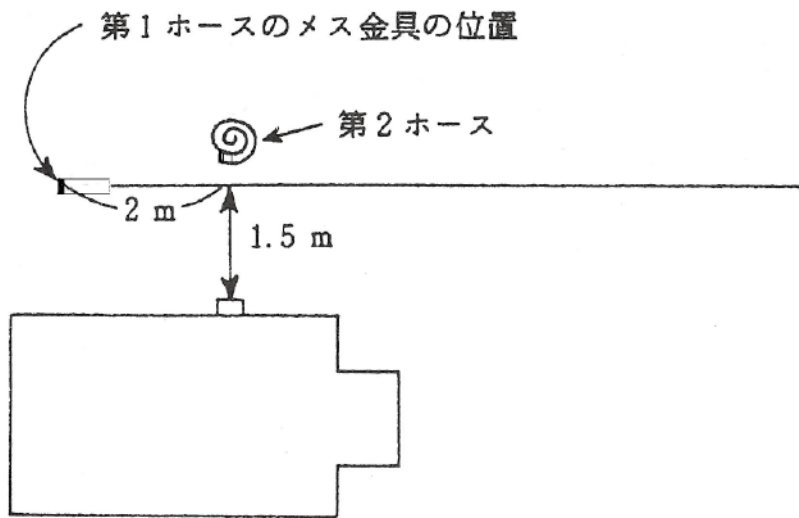


第5図 第 2 線 延 長 (1)

④

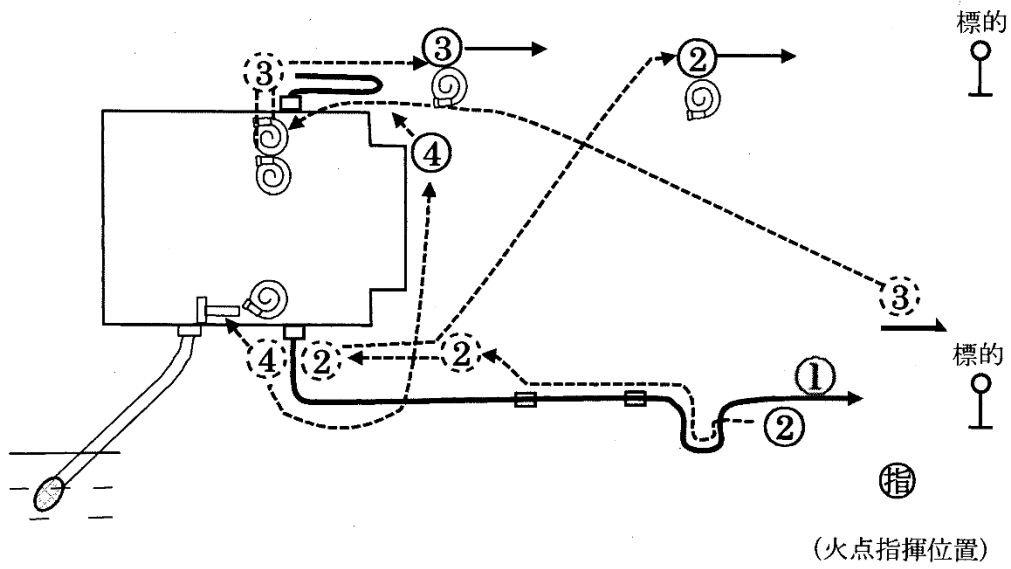
②の「第2線延長」の伝達に基本の姿勢で「第2線延長」と復唱し、第2筒先積載部にいたり（筒先が車両の後部に積載してある場合は、回れ右をして足を引きつけることなく発進し、吸管接地部をまたぎ積載部にいたる。または、車両の側方に積載してあり、その場でとれる場合はその場で向きを変えればよい。）、右手で筒先取手近くを持ち、左手でプレイパイプの上部を持って筒先を取りはずし、そのまま右に向きを変え②と相対し、筒先を水平にして②に渡す。

展張に便利な位置

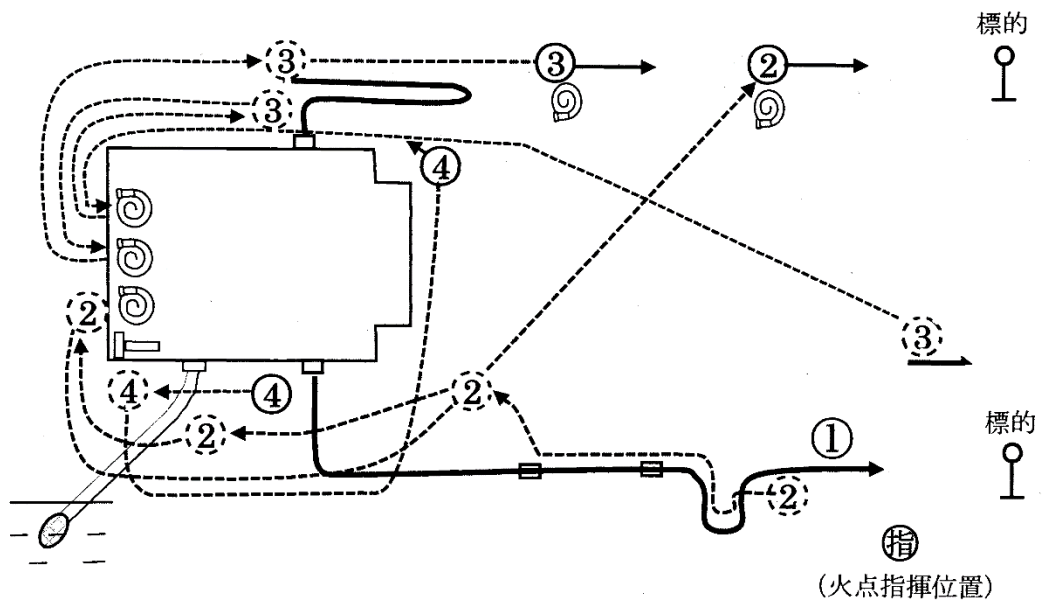


第5図 第2線延長 (1)

[その1]



[その2]



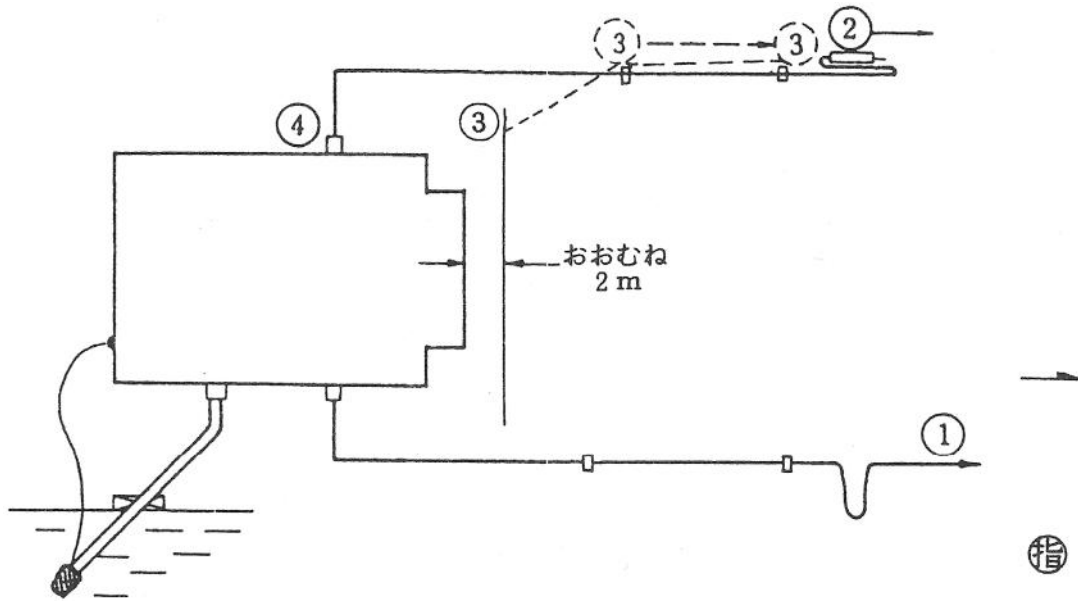
第6図 第2線延長(2)

⑤	そのままの姿勢で頭を動かし①の注水及び②③④の操作状況を監視する。
①	注水操作を続ける。
②	<p>第3ホース展張地点にいたり、めす金具部を右手で持ち、めす金具が手前になるように肩から下ろして地面に立て、右手でおす金具を下方から確実に保持し、若干持ち上げ、続いて右足でめす金具付近を確実に踏み、左手をホースに添え身体を火点方向に向ける。展張する際は、火点方向を確認し、右手のみ（左足を踏み出す。）で前方へ転がして展張する。次いで、右手はおす金具を持ったまま左足（かかと）を軸に身体を右回りに半転させ（ポンプ車に正対できるように）、同時におす金具が上を向くように左足で押え、身体を起こしてポンプ車方向を見る。さらに左手で取手近くのプレイパイプを握り、元金具を前方へ押出しながら頭上へ移動し、背負いひもの中央部付近を右手で持って頭をくぐらせ、右手はノズルの回転部以外を持ち、左手はプレイパイプの中央部に持ち変え、第3ホースと結合して確認し、左手でプレイパイプ上部を持ち、右手で取手を握ると同時にホースから左足を離して（右足を軸）火点側に1歩踏み込み、基本注水姿勢をとる。③が第2ホースを延長し、第3ホースに結合して姿勢を正したら、③に対して（後方をふり向かない。）「第2線放水始め」と合図し、</p>
③	<p>第2結合場所にいたり、第1ホースのおす金具をその場に置き、第2ホースを地面に立てて置き、右手でおす金具を下方から確実に保持し、若干持ち上げ、続いて右足でめす金具付近を確実に踏み、左手をホースに添え身体を火点方向に向ける。展張する際は、火点方向を確認し、右手のみ（左足を踏み出す。）で前方へ転がして展張する。第2ホースのおす金具を折って延長に便利な位置に置き、第1ホースのおす金具がやや上を向くように右足で押え、第2ホースのめす金具を両手で持って第1ホースに結合し確認した後、右足をホースから離すと同時に立ち上がりながら火点方向に向きを変え、第2ホースのおす金具を右手に持ち、腰部につけたのち身体を起こし火点に向かって延長し、第3結合場所にいたり、第2ホースのおす金具をその場に置き、立ち上がりながらホースに正対後、第2ホースのおす金具がやや上を向くように右足で押え、第3ホースのめす金具を両手で持って第2ホースに結合し、確認して身体を起こしながら火点の方向に向きを変え、右足を左足に引きつけて基本の姿勢をとる。（両かかたが第3結合中央より火点側になる。）</p> <p>つづいて②の「第2線放水始め」を復唱し、回れ右をして（右足を引きつけない。）発進し、延長ホースの左側（外側）に沿ってポンプ車方向に前進し、第2結合部付近をまたいで④の方向に直進し、</p>

第6図 第2線延長 (2)

④	<p>筒先を渡した後、右に向きを変え発進し（筒先積載部が車両の後部の場合は吸管接地部をまたぎポンプ車右側を通る。）、第1線延長ホースの接地部をまたぎポンプ車の前部にいたり（第2線延長線の右側で③の通過を待つ。）、③が第2線第1ホースを延長後（おす金具を地面に置いた時点）、第2線の延長ホースに注意し接地部を横断して第2放口側に移動し、火点に向って基本の姿勢となる。次いで、左足を横に開いて余裕ホースに配慮した後、再び火点に向って基本の姿勢となり、伝達を待つ。</p>
---	---

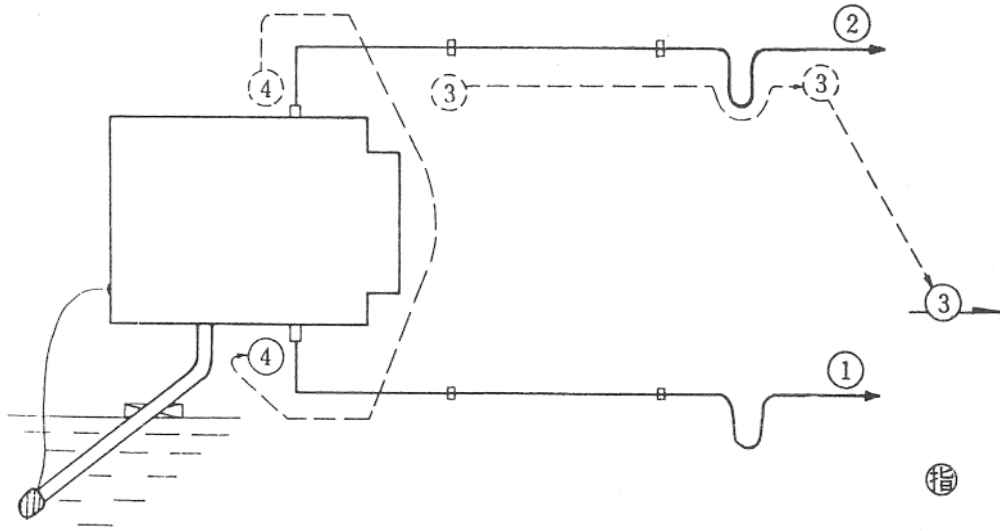
第6図 第2線延長 (2)



第7図 第2線延長(3)

③	③が「第2線放水始め」を④に伝達し、注水部署位置に停止し「伝達終り」と合図したならば、右に大きく向きを変え火点状況を監視する。
①	注水操作を続ける。
②	火点に向っておおむね5～6メートル前進し、筒先を前方に振って上側のホースを前方に送り、筒先を左上腕部と腹部で確実にかかえ込み、折り膝又は折り膝に準じた姿勢となり右手でホースをたぐり寄せ、これを右手で持って立ち、右足を踏み出し、半円を描くようにひろげ、約10メートルの余裕ホースをとった後、右足を元に戻して基本注水姿勢をとり、筒先保持の安全確保に配慮して更に7～8メートル火点方向に前進して基本注水姿勢をとった後ノズル操作姿勢に移行し、右手を筒先から離さないように滑らせながらプレイパイプの中央部付近へ移動し、筒先を右脇下で確実に抱え、左手も筒先から離さないように滑らせながらノズルに移動して握り、棒状注水まで開き、ノズルが開いたならば、再び左手を離さないように滑らせながらプレイパイプの上部に戻して握り、右手もプレイパイプから離さないように、滑らせながら取手を握って基本注水姿勢をとり注水する。
③	第2放口側ポンプ車前2メートルの位置で④に相対して停止し、右手を垂直に(手のひらは④側に向ける。)上げて「第2線放水始め」と④に伝達し、④の復唱を受けた後右手を下ろし、回れ右をして足を引きつけることなく発進し、第2結合部まで直進した後、延長ホースの右側に沿って前進し、②の反対側1歩後方で停止し「伝達終り」と合図する。つづいて破壊地点にいたり、再びとび口を持って構える。
④	③の「第2線放水始め」の伝達に右手を垂直に上げて(手のひらは③側に向ける。) 「第2線放水始め」と復唱し、右手を下ろして第2放口側に右足を踏み出し、放口コックを全開まで徐々に開くと同時に計器と送水状況に配慮しながらスロットルレバーを操作し、適正圧力を確保した後、右足を引きつけ火点に向って姿勢を正し、③の②に対する「伝達終り」の合図を確認した後、左に向きを変え、足を引きつけることなく発進し、ポンプ車前を通り(延長ホースに注意し接地部を横断する。)第1放口側に右向け止まれの要領で停止し、火点に向って姿勢を正して計器に配慮しながら放水操作を続ける。

第7図 第2線延長 (3)

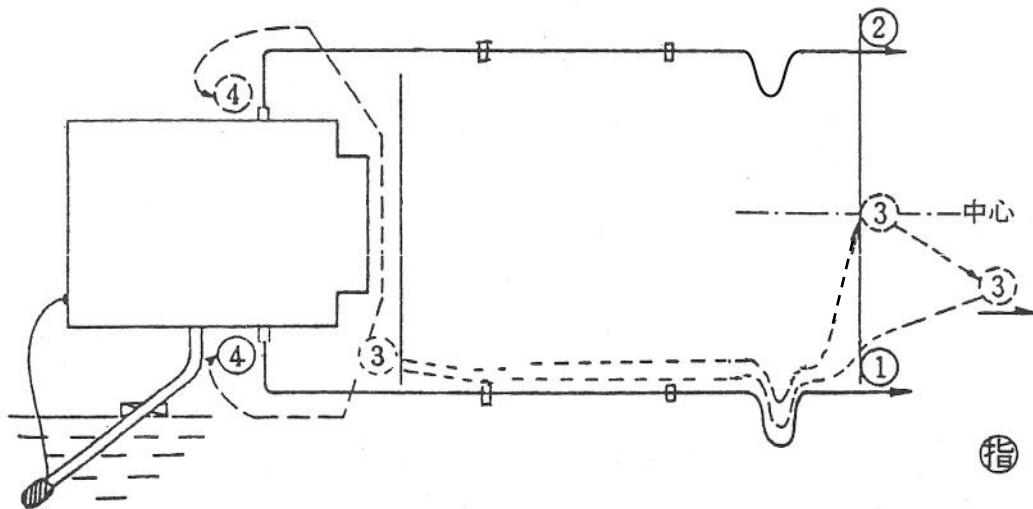


第8図 放水中止

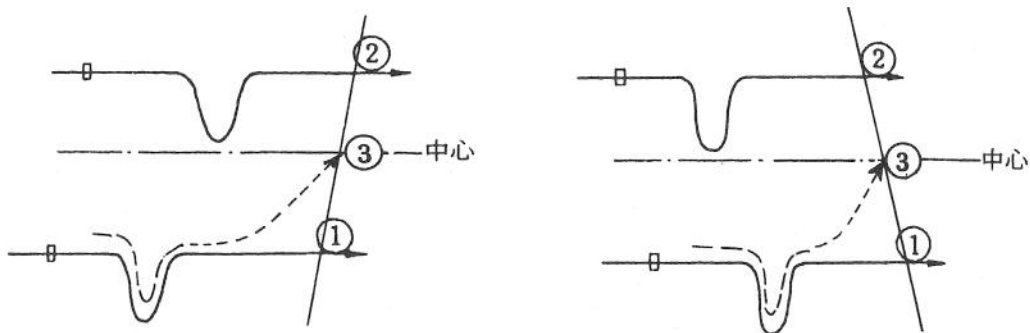
③	<p>合図係員の合図により、火点監視の姿勢から左に大きく向きを変え①を向いて基本の姿勢となり、「第1線、第2線放水止め」と号令し、各隊員の操作状況を監視し、③の「放水止め」の伝達後、破壊位置に戻りとび口を立てたのを確認して、右に大きく向きを変え鎮圧状況を監視する。</p>
①	<p>③の「第1線、第2線放水止め」の号令で、基本注水姿勢からノズル操作（放水開始時のノズル操作を参照）を行って放水中止し、基本注水姿勢に戻した後、「第1線放水止め」と復唱し、③が④に放水中止の伝達を終わって注水部署（第1線の注水部署と第2線の注水部署の中間地点）に戻り、「伝達終了」の合図で右手を筒先から離さないように滑らせながらプレイパイプの中央部付近へ移動し、筒先を右脇下で確実に抱え、左手も筒先から離さないように滑らせながらノズルに移動して握り、徐々に開いて水圧の低下に合わせながら筒先を右脇下に抱えたままノズルを下方に向けて排水し（下向きにしたならノズルを全開にして排水する。）、排水後そのままの姿勢でノズルを完全に閉める。次いで、ノズルから左手をプレイパイプの中央部付近に滑らせながら握り替え、右手はノズル部を握り「よし」と合図をした後、左足を右足に引きつけ、筒先を右足脇に立てて姿勢を正す。</p>
②	<p>③の「第1線、第2線放水止め」の号令で、基本注水姿勢からノズル操作（放水開始時のノズル操作を参照）を行って放水中止し、基本注水姿勢に戻した後、①に続いて「第2線放水止め」と復唱し、③が④に放水中止の伝達を終わって注水部署（第1線の注水部署と第2線の注水部署の中間地点）に戻り、「伝達終了」の合図で右手を筒先から離さないように滑らせながらプレイパイプの中央部付近へ移動し、筒先を右脇下で確実に抱え、左手も筒先から離さないように滑らせながらノズルに移動して握り、徐々に開いて水圧の低下に合わせながら筒先を右脇下に抱えたままノズルを下方に向けて排水し（下向きにしたならノズルを全開にして排水する。）、排水後そのままの姿勢でノズルを完全に閉める。次いで、ノズルから左手をプレイパイプの中央部付近に滑らせながら握り替え、右手はノズル部を握り「よし」と合図をした後、左足を右足に引きつけ、筒先を右足脇に立てて姿勢を正す。</p>
③	<p>①の「第1線放水止め」及び②の「第2線放水止め」の復唱を確認した後、「よし」と合図してとび口をその場（右側）に置き、身体を起こして後方に向きを変え、足を引きつけることなく発進し、①のおおむね3歩後方に直進して第1線の延長ホースの左側（内側）に沿ってポンプ車方向に前進し、更に第2結合部から④の方向に直進し、第1放口側ポンプ車前2メートルの位置で④に相対して基本の姿勢で停止し、右手を水平に上げて「第1線、第2線放水止め」と④に伝達し、④の復唱を受けた後、右手を下ろして回れ右をし、足を引きつけることなく発進して、往路と同じ経路を通して①の3歩後方まで進み、さらに注水部署（第1線の注水部署と第2線の注水部署の中間地点で①の右足かかとと②の右足かかとを結んだ線上に③の両足かかとが並ぶ位置）に直進して基本の姿勢で停止し、「伝達終了」と合図し、再び破壊地点にいたり、とび口を右足脇に立てて姿勢を正す。</p>

第8図 放水中止	
④	<p>③の「第1線、第2線放水止め」の伝達に右手を水平に上げ、「第1線、第2線放水止め」と復唱し、右手を下ろして第1放口側に左足を踏み込み、計器に配慮しながらスロットル操作を行うと同時に、第1放口コックを閉じた後、右に向きを変え足を引きつけることなく発進し、ポンプ車前を通り（延長ホースに注意し接地部をまたぐ。）、第2放口側にいたり放口コックを閉じた後、火点方向に向いて停止する。次いで、③の放水中止の「伝達終了」の合図を確認した後、左に向きを変え足を引きつけることなく発進し、再びポンプ車前を通過して第1放口側に右向け止まれの要領で火点方向に向いて停止する。</p>
備考	<p>④は、放水中止で①及び②がノズルのシャット完了時にエンジン回転が上昇するので、上昇した分のエンジン回転を下げる。</p>

第8図 放水中止



補足 3番員の伝達位置は、おおむね下図のとおりとする。



第9図 収 納

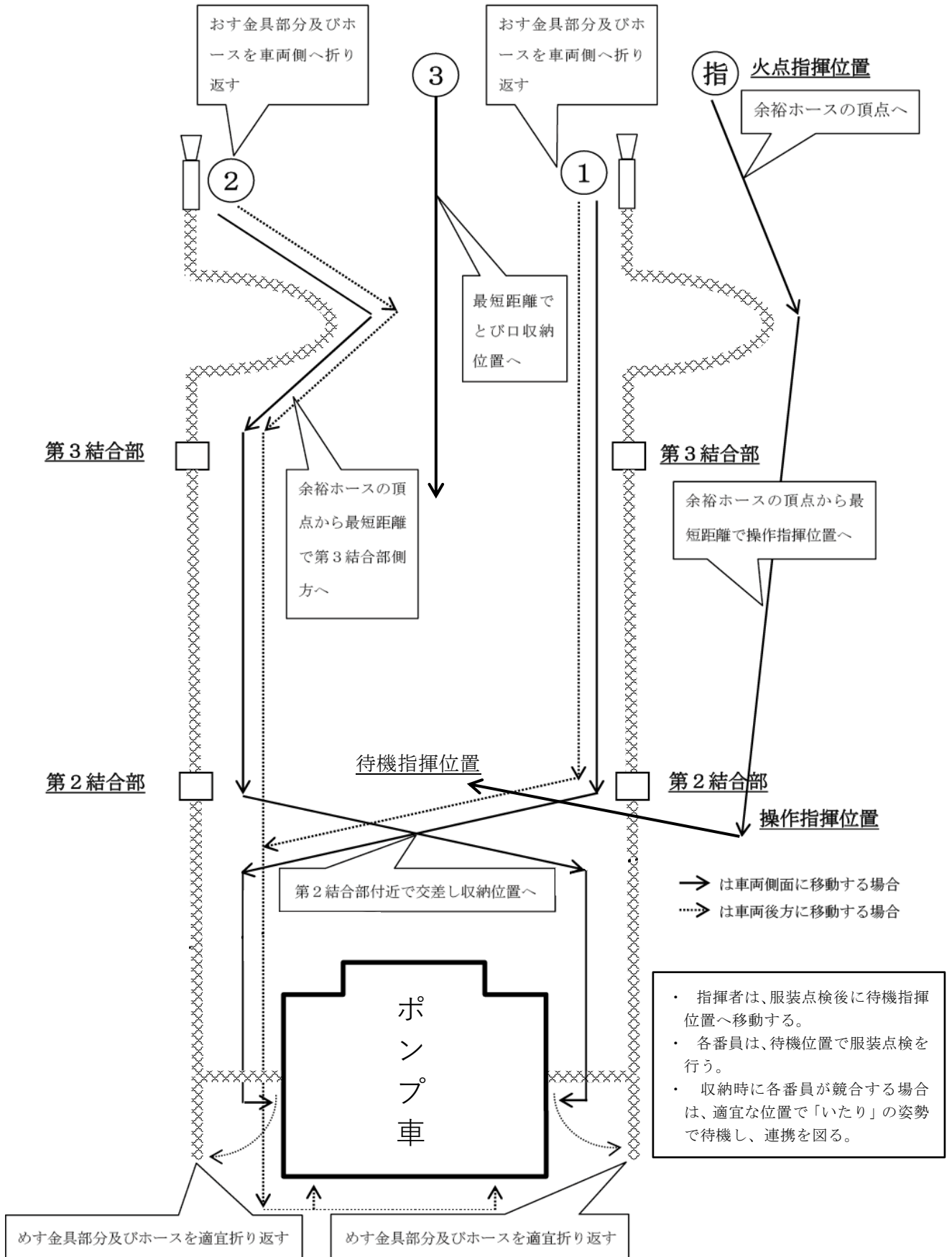
③	<p>合図係員の合図により、火点監視の姿勢から左に大きく向きを変え、①を向いて基本の姿勢となり「おさめ」と号令し、①②が筒先を離脱して背負うのを確認した後、第1線火点側余裕ホースの頂点方向に向きを変え、足を引きつけることなく発進し、操作指揮位置に右向け止まれの要領で延長ホース線に正対して基本の姿勢で停止し、各隊員の収納操作状況を監視する。</p>
①	<p>③の「おさめ」の号令により、筒先を少し浮かして前方に出し、右足でホースをまたぎながら斜め右前方に踏み出し、左足で第3ホースのおす金具が立つよう確実に押え、筒先を右大腿部の付け根で固定させ、両手は滑らせながら筒先をホースから離脱し、ノズルの回転部以外を右手で、左手は背負いひもの中央部を持ち、立ち上がりながら左足をホースから離す。右手を頭上に左手を右脇下にして左腕及び頭部を背負いひもにくぐらせ、ノズルが右肩に元金具が左腰の近くにくるように筒先を背負った後、右足を踏み込み左膝を立てた折り膝の姿勢でおす金具付近を折った後立ち上がり、半ば右に向きを変え、ホース線に沿って進み（火点側余裕ホース内は沿わなくてよい。）筒先収納位置に左向け止まれ（右向け止まれ）の要領でいたり、筒先の取手近くのプレイパイプを握り、元金具を前方へ押出しながら頭上へ移動し、背負いひもの中央部付近を右手で持って頭をくぐらせ、両手でプレイパイプを持ち元の位置に筒先を収める。</p>
②	<p>③の「おさめ」の号令により、筒先を少し浮かして前方に出し、右足でホースをまたぎながら斜め右前方に踏み出し、左足で第3ホースのおす金具が立つよう確実に押え、筒先を右大腿部の付け根で固定させ、両手は滑らせながら筒先をホースから離脱し、ノズルの回転部以外を右手で、左手は背負いひもの中央部を持ち、立ち上がりながら左足をホースから離す。右手を頭上に左手を右脇下にして左腕及び頭部を背負いひもにくぐらせ、ノズルが右肩に元金具が左腰の近くにくるように筒先を背負った後、右足を踏み込み右膝を立てた折り膝の姿勢でおす金具部分を折った後立ち上がり、半ば左に向きを変え、第2線火点側余裕ホースの頂点方向に向かい最短距離で第3結合部付近に進んだ後、ホース線に沿って進み、筒先収納位置に右向け止まれ（左向け止まれ）の要領でいたり、筒先の取手近くのプレイパイプを握り、元金具を前方へ押出しながら頭上へ移動し、背負いひもの中央部付近を右手で持って頭をくぐらせ、両手でプレイパイプを持ち元の位置に筒先を収める。</p>
③	<p>③の「おさめ」の号令により、とび口を少し浮かして回れ右をしながら左手に持ち替えて確実に左脇下に抱え、足を引きつけることなく発進し、最短距離を通過するとび口積載位置に左向け止まれ[右向け止まれ]の要領（開脚）でいたり、両手でとび口を元の位置に収める。</p>

第9図 収 納

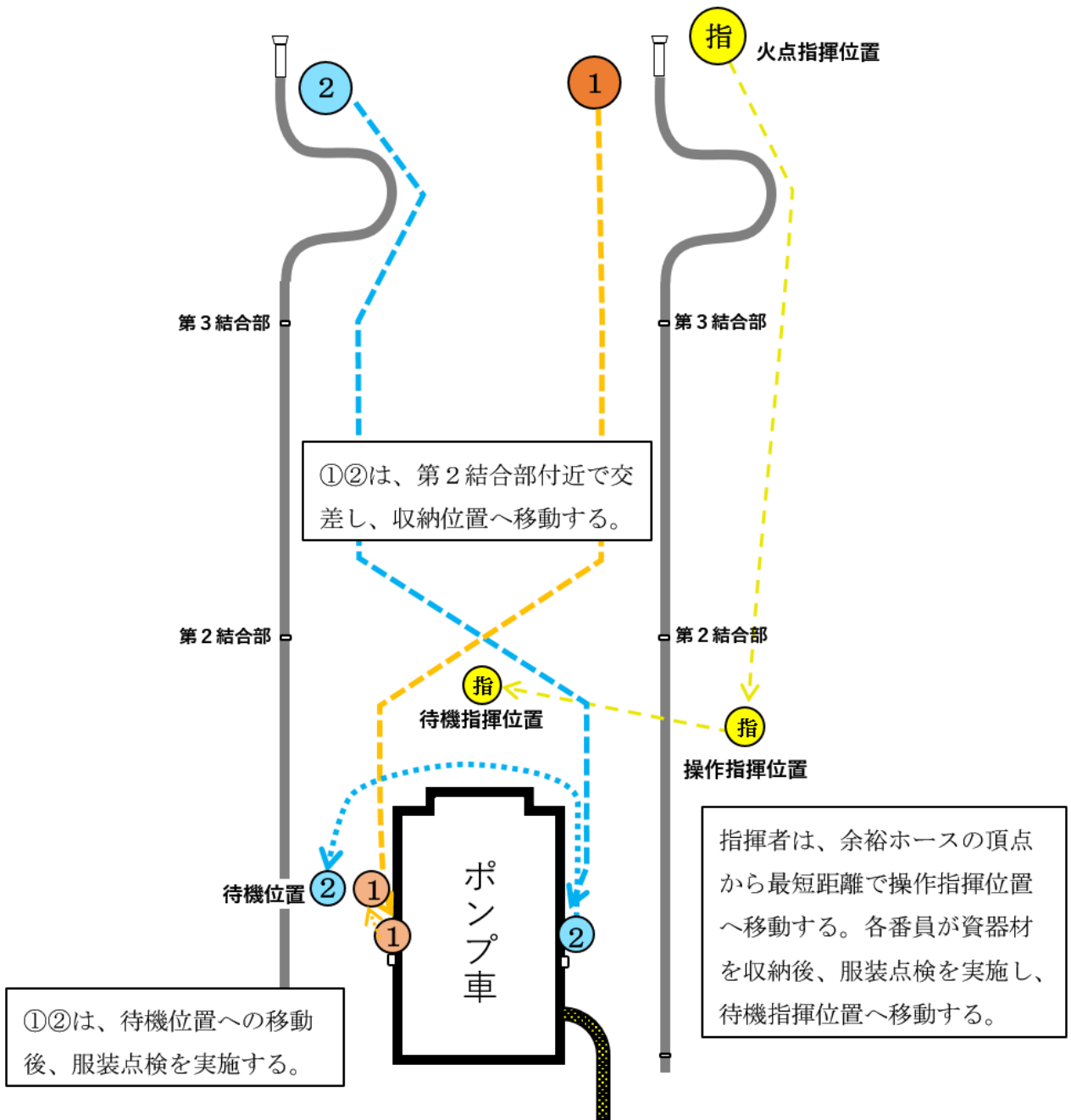
④

③の「おさめ」の号令により発進し、ホースの接地部をまたぎ、最短距離を通過して乗車位置に左向け止まれの要領（開脚）でいたり、手すり等を握って乗車してポンプレバーを操作し、エンジンスイッチを切って「エンジン停止」と呼唱後、手すり等を握って下車する。（下車後は火点の方向を向いた姿勢をとる。）次いで、第1放口に向きを変えて発進し、ホース内側にいたり、両手で第1線第1結合部を離脱し、めす金具を両手で腹部に保持した後、余裕ホースを伸長しながら火点方向に向きを変え、右足前のいたりの姿勢で止まり、折り膝の姿勢でめす金具部分を折り返し、ホースの上に置いた後、立ち上がる。次いで、左に向きを変え吸口部にいたり両手で吸口コックを閉鎖する。次いで、車前を通過し、第2線第1結合部付近のホース内側にいたり、両手で結合部を離脱し、めす金具を両手で腹部に保持した後、余裕ホースを伸長しながら火点方向に向きを変え、左足前のいたりの姿勢で止まり、折り膝の姿勢でめす金具部分を折り返し、ホースの上に置く。

第9図 収納

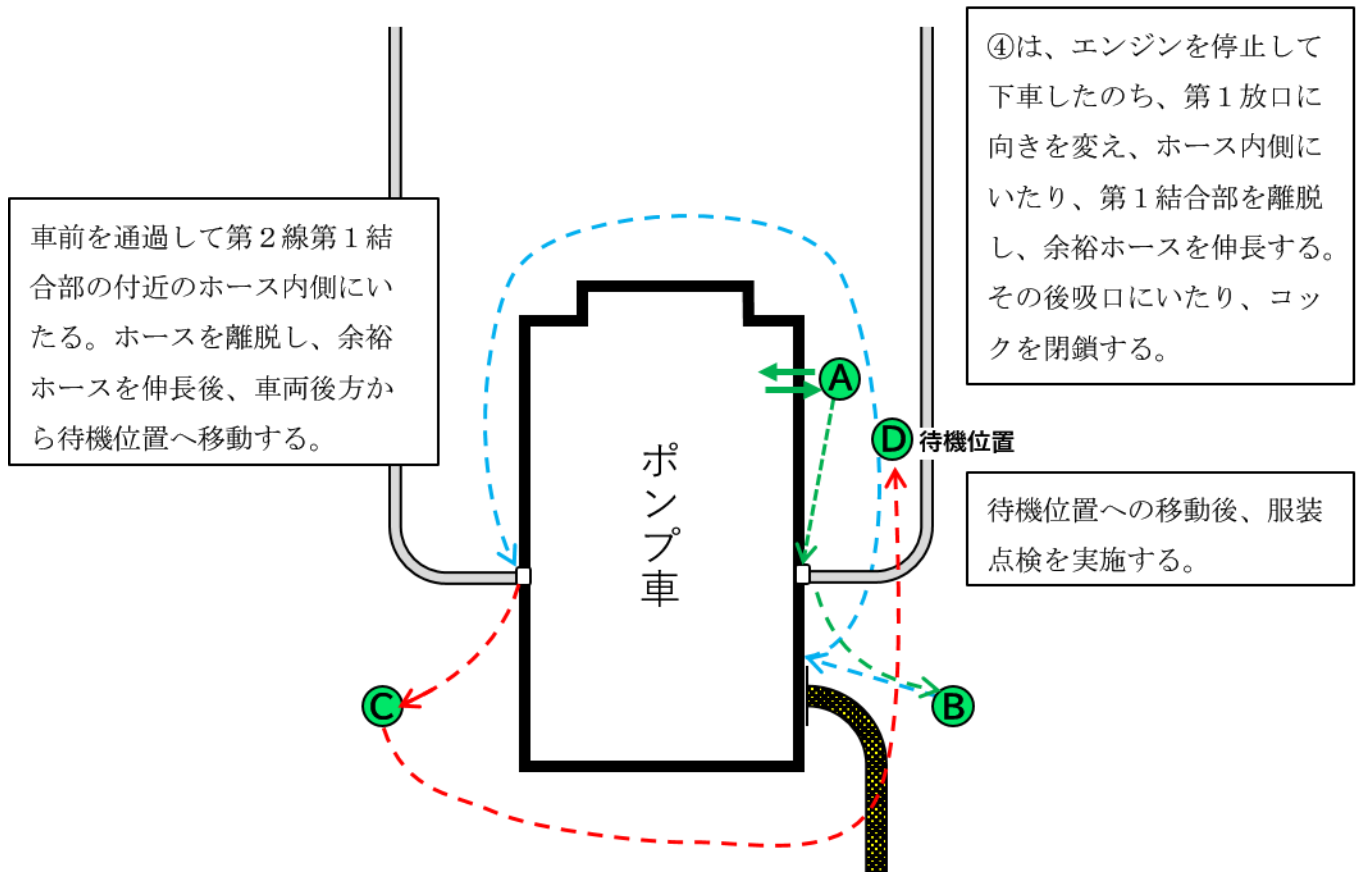


第9図 収納（指揮者・1番員・2番員）



収納時に各番員と競合する場合は、適宜な位置で「いたり」の姿勢で待機し連携を図る。

第9図 収納（4番員）



※ 下車後は、④ ⇒ ③ ⇒ ② ⇒ ①の順で行動する。

収納時に各番員が競合する場合は、適宜な位置で「いたり」の姿勢で待機し連携を図る。

点検・報告・解散	
身体・服装の点検	
指	各隊員が収納操作終了後、負傷の有無及び服装の乱れを点検し整える。次いで、待機指揮位置に向きを変え、足を引きつけることなく発進し、各隊員に相對して停止する。
①	収納操作終了後、左に向きを変え、足を引き付けることなく発進し、待機位置に移動後、負傷の有無及び服装の乱れを点検し整える。
②	収納操作終了後、右に向きを変え、足を引き付けることなく発進し、車前を通過し待機位置に右向け止まれの要領で移動後、負傷の有無及び服装の乱れを点検し整える。
③	<<左積載>> 収納操作終了後、右に向きを変え、足を引き付けることなく発進し、吸管的接地面をまたぎ車両後方から待機位置に移動後、負傷の有無及び服装の乱れを点検し整える。
	<<右積載>> 収納操作終了後、右に向きを変え、足を引き付けることなく発進し、待機位置に移動後、負傷の有無及び服装の乱れを点検し整える。
④	収納操作終了後、右に向きを変え、足を引き付けることなく発進し、吸管的接地面をまたぎ車両後方から待機位置に移動後、負傷の有無及び服装の乱れを点検し整える。
各隊員	負傷の有無及び服装の乱れを点検し整えた後、自主整頓を行う。
点 検 報 告	
指	各隊員が待機位置で自主整頓を行った後、「点検報告」と号令し、各隊員の点検結果報告に対して「よし」と呼唱する。
各隊員	待機位置で自主整頓を行った後、指の「点検報告」の号令に、①から④まで順次指の方向に向きを変え、基本の姿勢で「○番員異常なし」と報告し、指の「よし」の呼唱後、正面に復する。
終 了 報 告	
指	待機指揮位置で回れ右をし、前方の報告受領者に挙手注目の敬礼を行い、「○○消防団、消防操法を終了しました。」と報告し、挙手注目の敬礼を行った後、回れ右をする。
各隊員	指の終了報告中は、基本の姿勢で待つ。
解 散	
指	各隊員に対し、「わかれ」と号令し、各隊員に答礼後、解散させる。
各隊員	指の「わかれ」の号令により、一斉に指に正対し、挙手注目の敬礼を行い解散する。

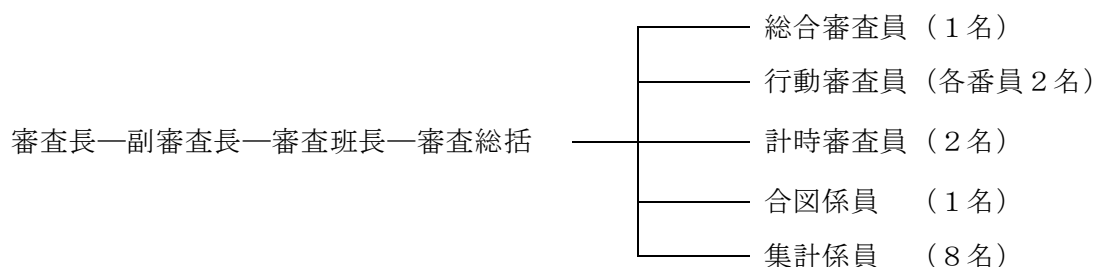
審查實施基準

審査実施基準

1 審査員の構成

- (1) 審査長 東京消防庁消防学校長
- (2) 副審査長 東京消防庁消防学校副校長
- (3) 審査班長 東京消防庁消防学校校務課教務係長
- (4) 審査総括 東京消防庁消防学校校務課係長
- (5) 審査員
 - ア 東京消防庁消防学校職員
 - イ 審査長が指定する消防職員

2 審査員の編成



3 審査の範囲

合図係員の「〇〇消防団、操法開始」の合図から「点検報告」が終了するまでとする。

4 審査の重点

- (1) 士気、規律の状況
- (2) 迅速な行動
- (3) 確実な操作
- (4) 消防用機械器具の取扱技術とその愛護
- (5) 安全管理

5 審査の基準及び方法

- (1) 採点方式
減点加算方式とする。
- (2) 総合審査
前4に基づき、不確実な事項等について減点する。
- (3) 番員別審査
「消防団員教育訓練必携」に基づき、不確実な事項等について減点する。

(4) 所要時間の採点要領

ア 所要基準時間

第1線	60秒
第2線	65秒

イ 計時方法

- (ア) 第1線のホース延長操作、第2線延長操作に区分して計時する。
- (イ) 第1線延長操作の所要時間は、指揮者の「操作始め」の号令による4番員の「よし」の合図の「し」から、標的が倒れるまでを計時する。
- (ウ) 第2線延長操作の所要時間は、指揮者の「第2線延長始め」の号令による1番員の「第2線延長始め」の復唱の「め」から、標的が倒れるまでを計時する。

ウ 所要時間に対する配点

- (ア) 基準時間より早い場合でも、加点は行わない。
 - (イ) 基準時間を超過した場合は、1秒（小数点以下は四捨五入）につき2点を減点する。
- (5) ポンプ等の諸元性能、吸管結合部の違いによる審査上の配慮はしない。

6 順位の決定

- (1) 総減点の少ない隊を優位とする。
- (2) 同点の場合
 - ア 前(1)の減点数が同じ場合は、「総合審査と番員別審査」の減点数の合計が少ない隊を優位とする。
 - イ 前アの減点数が同じ場合は、「総合審査」の減点数の少ない隊を優位とする。
 - ウ 前イの減点数が同じ場合は、指揮者の「動作・行動の部」の減点数の少ない隊を優位とする。
 - エ 前ウの減点数が同じ場合は、「タイムの部」の実測時間（2名の計時審査員の平均値100分の1秒）の早い隊を優位とする。

7 注意事項

- (1) 操法員が、審査員等と接触し、転倒又は器具の落下等により不具合が生じた場合においても操法を継続するものとする。
なお、審査についても継続し、この場合の審査上の優劣は認めない。
- (2) 円滑な進行を妨げる行動は審査対象としてとらえる。
- (3) 操法員及び操法員関係者は操法開始前に操法会場に立ち入れない。

8 失格

以下の場合、審査長の判断で、失格とすることができる。

- (1) 「東京都消防操法大会操法実施要領・操法審査要領」違反があった場合。
- (2) 操法実施中、操法員又は機械器具に不測の事故が発生し、操法の続行が不可能と認められた場合。

9 その他

審査に対する異議申し立て等については、一切受け付けない。

ポンプ車操法審査上の統一事項

共通事項

- 1 減点対象の行動等が審査表の項目にない場合は、その前後の欄で減点する。
- 2 待機位置につく直前までの動作は、審査の対象外であるが、遅延行為は減点する。
- 3 機械器具については、操法開始前に確認し、不備があった場合は減点とする。
- 4 服装については、待機位置整列時に確認し、点検報告前に服装点検後の服装を再度審査する。
- 5 Tシャツ、手袋はチームで色等が統一されていれば減点しない。
- 6 ゼッケンの端末及び筒先の背負い紐は1箇所であればテープ留めしても良い。
- 7 2歩以上歩いた場合は減点する。(2・3番員のホース修正時及び4番員収納時の余裕ホース伸張時は除く。)
- 8 号令、想定及び報告は、間違い(言い直しを含める。)や忘れた場合は2点、不明瞭であったり、声が小さい場合は1点減点する。
- 9 結合確認を確実に行った場合は、放口・ホース・筒先の各結合部からの漏水は減点しない。
- 10 第1線放水開始時、1番員がふらついた場合は、4番員の操作するポンプ計器が適正圧力であったとしても1番員と4番員を安全管理の項目で減点する。
また、第2線放水開始時、2番員がふらついた場合も、同様に2番員と4番員を安全管理の項目で減点する。
- 11 減点基準
 - (1) 1点：基本動作及び、操作等が不明瞭である場合
 - (2) 2点：基本動作及び、操作等に誤りがあった場合又は、実施しなかった場合

指揮者

- 1 隊員の操作等の不備、または危険回避等のために行う指揮者の適切な指示、行動は減点しない。
- 2 監視要領は対象の方向を向いているかを審査する。必要に応じて頭を動かし監視するものとし、必要以上の動きまたは形式的なものは減点する。
- 3 「移動要領」「停止要領」「方向変換要領」では、ふらつき、姿勢、節度も審査する。
- 4 「想定付与」「号令」では欠落・誤り・不明確・言い直し等について審査する。

1番員

- 1 「ホースの展張要領」は、展張の方法に誤りがある場合、二重巻ホースが完全に伸びなかった場合、真っ直ぐ伸びなかった場合等に減点する。
- 2 「ホース延長要領」は、ホースが完全に伸びなかった場合、結合部を引きずった場合等に減点する。
- 3 「結合要領」では、確実性、節度及び器具愛護等について審査する。
- 4 「余裕ホースの作成要領・形状」では、水が乗る前の状態で審査し、余裕ホースの形・大きさ・重なりやねじれの有無について審査する。

- 5 筒先保持姿勢は基本注水姿勢とし、ふらつき等危険行為があった場合は安全管理の項目でも減点する。
※ 基本注水姿勢とは、左手が筒先プレイパイプの上端、右手が筒先取手部分を右腰部に確実に保持した状態で筒先角度が約30度である。
- 6 注水はストレートとする。
また、筒先閉鎖（シャット）した後、ノズル先端から水が出た場合は、減点する。
- 7 排水後ノズルを立て、体側にノズルが接した状態においては、管そう付近のホース形状が定まらなくても減点しない。

2番員

- 1 「ホースの展張要領」は、展張の方法に誤りがある場合、二重巻ホースが完全に伸びなかった場合、真っ直ぐ伸びなかった場合等に減点する。
- 2 「ホース延長要領」は、ホースが完全に伸びなかった場合、結合部を引きずった場合等に減点する。
- 3 「結合要領」では、確実性、節度及び器具愛護等について審査する。
- 4 「放水はじめ」の伝達は、4番員が火点側を向き、基本の姿勢をとっている場合に限り、ポンプ車手前10メートルから右手を上げて伝達を開始してもよい。（10メートルよりも手前で伝達した場合は減点する。）
なお、4番員が基本の姿勢をとっていない場合に伝達した場合は減点とし、基本の姿勢をとった時点をもって伝達を開始してよい。
- 5 ホースの修正は、ホースが折れている場合等で、修正が必要であるにもかかわらず行わなかった場合に減点する。ホースライン及び余裕ホースの形状を整えるための修正は不要である。
なお、ホースの修正に伴う歩行は減点しない。
- 6 「余裕ホースの作成要領・形状」では、水が乗る前の状態で審査し、余裕ホースの形・大きさ・重なりやねじれの有無について審査する。
- 7 筒先保持姿勢は基本注水姿勢とし、ふらつき等危険行為があった場合は安全管理の項目でも減点する。
※ 基本注水姿勢とは、左手が筒先プレイパイプの上端、右手が筒先取手部分を右腰部に確実に保持した状態で筒先角度が約30度である。
- 8 注水はストレートとする。
また、筒先閉鎖（シャット）した後、ノズル先端から水が出た場合は、減点する。
- 9 排水後ノズルを立て、体側にノズルが接した状態においては、管そう付近のホース形状が定まらなくても減点しない。

3番員

- 1 「吸管伸長」では、延長時、搬送時に地面に触れた場合、一回り以上のねじれがある場合及びまっすぐに延長していない場合は減点する。

- 2 吸管投入時における補助者の行動は、吸管投入後（吸管が着水した時点以降）の吸管浮上防止のみとし、それ以外（投入前に吸管に触れる、枕木の取り付け、控綱の修正等）について補助した場合は、3番員の該当項目を減点する。
- 3 吸管投入は吸管の自重を利用し右手を水平に保ち控綱を滑らすように投入する。
- 4 控綱は投入後吸管に沿って延長する。吸管の下に挟み込んでいる場合やキックができ修正しない場合は減点する。
- 5 控綱のポンプ車への結着は、もやい結びに半結びをかけ、末端が概ね一握りないし一握り半の長さとする。
- 6 とび口の搬送は、柄の角度がおおむね45度で刃先が下を向くようにし、しっかり右手で確実に左脇に抱え込み、搬送時とび口をふら付かせない。これによらない場合は減点する。
- 7 ホースの展張要領は、展張の方法に誤りがある場合、二重巻ホースが完全に伸びなかった場合、真っ直ぐ伸びなかった場合等に減点する。
- 8 ホース延長要領は、ホースが完全に伸びなかった場合、結合部を引きずった場合等に減点する。
- 9 「結合要領」では、確実性、節度及び器具愛護等について審査する。
- 10 「第2線放水はじめ」の伝達は、4番員が火点側を向き、基本の姿勢をとっている場合に限り、ポンプ車手前10メートルから右手を上げて伝達を開始してもよい。（10メートルよりも手前で伝達した場合は減点する。）なお、4番員が基本の姿勢をとっていない場合は、基本の姿勢をとった時点をもって伝達を開始する。
- 11 ホースの修正は、ホースが折れている場合等で、修正が必要であるにもかかわらず行わなかった場合に減点する。ホースライン及び余裕ホースの形状を整えるための修正は不要である。
なお、ホースの修正に伴う歩行は減点しない。

4番員

- 1 「吸管伸長」では、延長時、搬送時に地面に触れた場合、一回り以上のねじれがある場合及びまっすぐに延長していない場合は減点する。
- 2 吸管投入時の補助動作を確実に実施する。補助動作とは水槽側に右足を半歩踏み込み自重でさがる吸管を水槽側へ送りこむ動作である。これを行わない場合については減点する。
- 3 ポンプ側の余裕ホースが取れていない場合は、4番員が余裕ホースを取るものとするが減点しない。（2番員の減点となる。）第2線についても同様とする。（3番員の減点となる。）また、余裕ホースが取れている場合でも動作を実施する。
- 4 送水圧力は0.4MPaを超えない範囲とする。

ポンプ車操法審査表

総合審査表（ポンプ車操法の部）

団名	消 防 団	審査員 氏 名		減 点 合 計	点
----	-------	------------	--	------------	---

項 目	減 点
指 揮 全 般	0 1 2 3 4 5
連 携 要 領	0 1 2 3 4 5
士 気 ・ 規 律	0 1 2 3 4 5
迅 速 な 行 動 ・ 動 作	0 1 2 3 4 5
確 実 な 操 作 ・ 習 熟 度	0 1 2 3 4 5
機 械 器 具 の 愛 護	0 1 2 3 4 5
安 全 管 理	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

減点「0」とは操法の練度が高く、各項目を確実に実施している時に付す点数である。

※ 減点「5」とは諸動作に不確実な点が多く、練度が著しく低い場合に付す点数である。

※ 安全管理の減点「10」とは「操法中止」には達しないが、重大事故発生危険が大であった場合に付す点数である。

ポンプ車操法審査表（指揮者）

団名		消防団		審査員 氏名	減点 合計	点
減点事項			減点事項			
待機	位置・姿勢等（服装含む）	1・2	収 納	方向変換時機・要領全般	1・2	
「番号」	号令	1・2		「おさめ」	号令 1・2	
開始報告	敬礼・報告要領全般	1・2		操作指揮位置移動時機・要領全般	1・2	
想定	付与	1・2		操作指揮位置状況	1・2	
「乗車」	号令・各隊員の監視時機・要領	1・2		各隊員の監視要領全般	1・2	
乗車	要領全般	1・2		服装点検時機・要領全般	1・2	
第 1 線	「操作始め」	号令・要領	1・2	待機指揮位置移動要領全般	1・2	
	④呼唱前行動開始	2	「点検報告」	号令 1・2		
	下車・操作指揮位置移動要領全般	1・2	各隊員の報告に対する「よし」呼唱	1・2		
	操作指揮位置状況	1・2	姿勢等全般	1・2		
	各隊員の監視要領全般	1・2	安全管理	1・3・5		
	火点指揮位置移動時機・要領全般	1・2	転倒	5×		
第 2 線 延 長	火点指揮位置	1・2				
	火点監視・方向変換要領全般	1・2				
	各隊員の監視要領全般	1・3				
	方向変換時機・要領全般	1・2				
	注水方向(姿勢)変換「号令」等全般	1・2				
第 2 線 延 長	「第2線延長始め」	号令等全般	1・2			
	各隊員の監視要領全般	1・2				
	方向変換時機・要領全般	1・2				
「第1線・第2線放水止め」		号令	1・2			
各隊員の監視要領全般		1・2				

ポンプ車操法審査表（1番員）

団名		消防団		審査員氏名	減点合計		点
減点事項				減点事項			
待機	位置・姿勢等（服装含む）	1・2	放水	ノズル操作要領			1・2
番号	「1」呼唱	1・2		「第1線放水止め」復唱			1・2
乗車	要領全般	1・2		筒先保持姿勢			1・3
第1線延長	④呼唱前行動開始	2	中止	排水要領全般			1・2
	下車・管そう積載位置移動要領	1・2		「よし」呼唱・時機			1・2
	管そう・ホース搬送要領	1・2		筒先直立要領			1・2
	停止位置・要領	1・2	収納	筒先離脱・背負い要領			1・2
	第3ホース展張要領・形状	1・2		筒先搬送・収納要領			1・2
	筒先結合要領	1・2	点検報告	服装点検要領			1・2
	筒先を構える要領・姿勢	1・2		待機位置移動整頓要領			1・2
	「放水始め」号令・時機	1・2		「1番員異常なし」呼唱			1・2
	余裕ホース作成要領	1・2		姿勢等全般			1・2
	ホースの形状	1・2	安全管			理	1・3・5
火点進入・停止要領	1・2	転倒	5×				
ノズル操作要領	1・2	器具愛護	踏みつけ	2×			
筒先保持姿勢	1・3		蹴飛ばし	2×			
注水方向（姿勢）変換要領	1・2		投げつけ	2×			
放水量不適	1・3・5		落下	5×			
第2線延長	「第2線延長始め」復唱		1・2	引きずり	2×		
	筒先保持姿勢		1・2				

ポンプ車操法審査表（2番員）

団名		消防団		審査員氏名	減点合計	点
減点事項				減点事項		
待機	位置・姿勢等（服装含む）	1・2	第1線延長	第2線	第3ホース展張要領・形状	1・2
番号	「2」呼唱	1・2			筒先結合要領	1・2
乗車	要領全般	1・2			筒先を構える要領・姿勢	1・2
	④呼唱前行動開始	2			「第2線放水始め」号令・時機	1・2
	下車・ホース積載位置移動要領	1・2			余裕ホース作成要領	1・2
	ホース取り出し・移動要領	1・2			余裕ホースの形状	1・2
	第1ホース展張要領・状況	1・2			火点進入・停止要領	1・2
	結合要領・確認・余裕ホース状況	1・2			ノズル操作要領	1・2
	第2ホース搬送要領	1・2			筒先保持姿勢	1・3
	第1ホース延長要領・状況	1・2			放水量不適	1・3・5
	第2ホース展張要領・状況	1・2			ノズル操作要領	1・2
	第2ホース結合要領・確認	1・2			「第2線放水止め」復唱	1・2
	第2ホース延長要領・状況	1・2			筒先保持姿勢	1・3
	第3ホース結合要領・確認	1・2			排水要領全般	1・2
	直立要領・姿勢・位置	1・2			「よし」呼唱・時機	1・2
	「放水始め」復唱	1・2			筒先直立要領	1・2
	「放水始め」号令・位置・姿勢	1・2			筒先離脱・背負い要領	1・2
	ホースの修正等	1・2			筒先搬送・収納要領	1・2
	「伝達終り」呼唱・位置・筒先補助	1・3	点検	服装点検要領	1・2	
	注水方向（姿勢）変換要領	1・2	報告	待機位置移動整頓要領	1・2	
	「よし」呼唱	1・2	安全管	「2番員異常なし」呼唱	1・2	
	「第2線延長」号令・位置・姿勢	1・2		姿勢等全般	1・2	
	筒先受領・背負い要領	1・2	転倒	5×		
	第3ホース取り出し・担ぐ要領	1・2	器具愛護	踏みつけ	2×	
	ホース搬送要領	1・2		蹴飛ばし	2×	
	停止位置・要領	1・2		投げつけ	2×	
				落下	5×	
				引きずり	2×	

ポンプ車操法審査表（3番員）

団名		消防団		審査員氏名			減点合計	点
減点事項				減点事項				
待機	位置・姿勢等（服装含む）	1・2	第2線延長	「第2線放水始め」号令・位置・姿勢		1・2		
番号	「3」呼唱	1・2		ホースの修正等		1・2		
乗車要領全般		1・2		「伝達終了」呼唱・位置		1・2		
吸水処置	④呼唱前行動開始	2	放水中止	とび口を構える要領・姿勢		1・2		
	下車・吸管積載位置移動要領	1・2		「よし」呼唱		1・2		
	吸管止め金具開放・吸管受領要領	1・2		「第1線・第2線放水止め」号令		1・2		
	吸管延長・搬送要領	1・2		「伝達終了」呼唱・位置		1・2		
	控綱解絡・保持状況	1・2	とび口直立要領		1・2			
	「よし」呼唱・時機	1・2	収納	とび口搬送・収納要領		1・2		
	投入要領全般	1・2	点検報告	服装点検要領		1・2		
	控綱結着要領・状況	1・2		待機位置移動整頓要領		1・2		
枕木搬送・吸管への取付け要領	1・2	「3番員異常なし」呼唱		1・2				
とび口搬送全般・破壊地点部署要領	1・2			姿勢等全般		1・2		
注水方向変換（姿勢）・変換要領全般	1・3	安全管		理		1・3・5		
第2線延長	「よし」呼唱	1・2	転倒	5×				
	ホース積載位置移動要領	1・2	器具愛護	踏みつけ	2×			
	ホース取り出し・移動要領	1・2		蹴飛ばし	2×			
	第1ホース展張要領・状況	1・2		投げつけ	2×			
	結合要領・確認・余裕ホース	1・2		落下	5×			
	第2ホース搬送要領	1・2		引きずり	2×			
	第1ホース延長要領・状況	1・2						
	第2ホース展張要領・状況	1・2						
	第2結合要領・確認状況	1・2						
	第2ホース延長要領・状況	1・2						
	第3結合要領・確認状況	1・2						
	直立要領・姿勢・位置・復唱	1・2						

ポンプ車操法審査表（４番員）

団名			消防団			審査員氏名			減点合計	点
減点事項					減点事項					
待機	位置・姿勢等（服装含む）	1・2	第2線延長	「第2線放水始め」復唱・姿勢				1・2		
		番号「4」呼唱		1・2	放口開放・スロットル操作要領				1・2	
「よし」呼唱・乗車要領全般		1・2		放水圧力・適正圧力不適				1・3		
「エンジンよし」呼唱		1・2		第1放口移動時機・計器確認				1・2		
ブレーキ等操作全般		1・2	放水	放水中止時（適正圧力）スロットル操作				1・2		
「よし」呼唱		1・2		「第1線・第2線放水止め」復唱・姿勢				1・2		
ポンプレバー操作・「ポンプよし」呼唱		1・2		スロットル操作・放口閉鎖要領				1・2		
吸水処置	下車・吸管積載位置移動要領		1・2	中止	第2放口移動・放口閉鎖要領				1・2	
	吸管止め金具開放・吸管を渡す要領		1・2		第1放口移動時機・要領				1・2	
	吸管延長要領		1・2		収納扉等閉鎖時機・要領				1・2	
	「よし」呼唱		1・2		収納	乗車・「エンジン停止」呼唱・下車要領				1・2
	吸管搬送要領		1・2	第1放口離脱余裕ホース伸長要領				1・2		
	投入補助要領		1・2	第2放口離脱余裕ホース伸長要領				1・2		
	吸口を開く要領		1・2	点検報告		吸口閉鎖要領				1・2
	真空操作・「真空よし」呼唱		1・2		服装点検要領				1・2	
火点正対姿勢・余裕ホース要領		1・2	待機位置移動整頓要領				1・2			
「放水始め」復唱・姿勢・時機		1・2	「4番員異常なし」呼唱				1・2			
第1線延長	放口開放・スロットル操作要領		1・2	姿勢等全般				1・2		
	送水圧力・適正圧力不適		1・3	安全管						
	注水方向変換時計器確認		1・2	転倒	5×					
第2線延長	「第2線延長」復唱・姿勢		1・2	器具愛護	踏みつけ	2×				
	筒先取外し・筒先を渡す要領		1・2		蹴飛ばし	2×				
	車前待機要領		1・2		投げつけ	2×				
	第2放口移動時機・計器確認		1・2		落下	5×				
	火点正対姿勢・余裕ホース要領		1・2		引きずり	2×				
				落水	10×					
				エンスト	10×					

ポンプ車操法タイム表

消 防 団

タイム審査員氏名		.			
種 別		基準タイム	測定タイム		平均タイム
ポン プ 車	第 1 線	6 0 秒	第 1 測定者	秒	秒
			第 2 測定者	秒	
	第 2 線	6 5 秒	第 1 測定者	秒	秒
			第 2 測定者	秒	

倒的タイム オーバータイム

第 1 線	秒	第 1 線	秒	合 計	秒
第 2 線	秒	第 2 線	秒		

減 点 合 計

点

※注意

- 1 測定タイムは小数点第 2 位までを測定し、記入する。
- 2 平均タイムは二人の測定タイムの合計を、2 で割って小数点第 2 位を四捨五入した数値を記入する。
- 3 倒的タイム欄には、平均タイムの小数点第 1 位を四捨五入した数値を記入する。
- 4 オーバータイムは、基準タイムと倒的タイムの差を記入する。倒的タイムが基準タイム内の場合、オーバータイムは 0 秒とする。
- 5 合計欄には、第 1 線と第 2 線のオーバータイムの合計を記入する。
- 6 減点欄には、合計タイム× 2 点の数値を記入する。

測定基準

- 第 1 線は、指揮者の「操作始め」の号令による 4 番員の「よし」の「し」から標的が倒れた時までとする。
- 第 2 線は、指揮者の「第 2 線延長始め」の号令による 1 番員の「第 2 線延長始め」の復唱の「め」から標的が倒れた時までとする。